



# 情報社会を見る目を養い、新しい視点を探る。



情報コミュニケーション学部長  
石川 幹人 (いしかわ まさと)

1982年東京工業大学理学部卒業。同大学院物理情報工学専攻、企業および国家プロジェクトの研究所勤務、明治大学情報コミュニケーション学部教授を経て、2012年より現職。大学・大学院では、生物物理学・心理物理学を学び、企業では人工知能の開発に従事。遺伝子情報処理の研究で博士号(工学)を取得。専門は認知情報論および科学基礎論。著書に、『心と認知の情報学』(単著/勁草書房)、『入門・マインドサイエンスの思想』(共編著/新曜社)、『心とは何か〜心理学と諸科学との対話』(共編著/北大路書房)、『だまされ上手が生き残る〜入門!進化心理学』(単著/光文社新書)、『ダーウィンの危険な思想』(共訳/青土社)などがある。

10  
人×□=個

「個」はあなた自身と、あなたという器の中身で形作られるもの。  
□の中には、あなたというキャンパス、そしてあなたという器を強くしてくれる秘密が隠されています。  
明治大学情報コミュニケーション学部で、世界で活躍できるあなたの「個」を育ててみませんか?

## CONTENTS

学部長メッセージ	01
情報コミュニケーション学部概要	03
情報コミュニケーション学部の特色 ～個を育てる情報コミュニケーション学部の学び～	
① 自分自身で「問い」を立て、多角的な視点からアプローチする楽しさを学ぶ	05
② さまざまな手法を駆使した「表現」を 実践し、コミュニケーションの輪を広げる	07
③ 卒業生と現役生による パネルディスカッション 「学部の原点と現点、そしてこれから」	09
カリキュラムの特長	11
コース紹介	
☑ 社会システムと公共性コース(Aコース)	13
☑ 組織とコミュニティコース(Bコース)	14
☑ 多文化と国際協調コース(Cコース)	15
☑ メディアと環境コース(Dコース)	16
ゼミナール教育で得られる「学び」の醍醐味	17
基礎教育・総合科目	19
国際交流、ジェンダーセンター	21
教員紹介	23
就職実績、資格取得	25
情報コミュニケーション学部生の1日	26
卒業生からのメッセージ	27
入試情報	29

※登場する人物の在籍年次や役職等は、取材時点のものです。

高度情報社会である現代は、変化が著しく、さまざまな仕組みの変革や、問題解決に迫られます。画一的なものの方では何も生まれず、何も解決できません。新しい視点で、カラを打ち破っていかねばいけないのが現代社会です。

情報コミュニケーション学部は、2004年に開設された、比較的新しい学部です。最近では、他大学でも「情報〇〇学部」という学部は増えてきましたが、情報コミュニケーションというのは、明治大学だけです。時代の変化に敏感な明治大学ならではのプログラムです。

では、具体的に何を学ぶのでしょうか。「情報」と「コミュニケーション」、実は裏腹の関係にあるふたつの言葉を合わせたものです。つまり、人々による流動的な営みが「コミュニケーション」

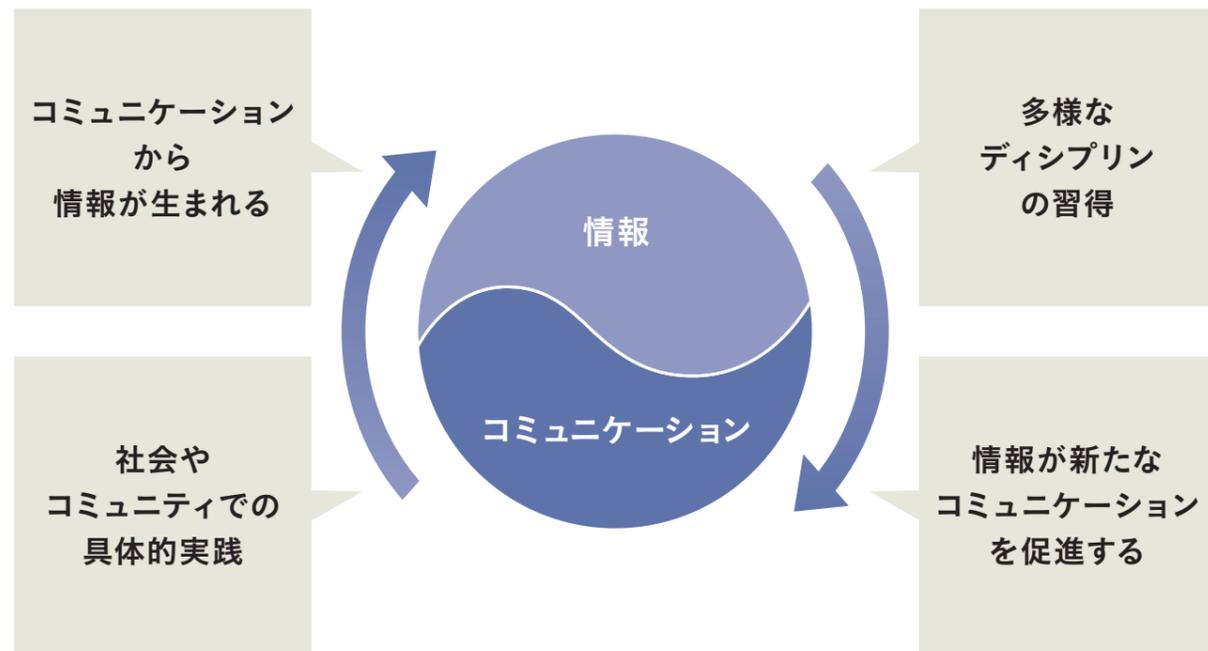
であり、その中から安定的に明文化されてくるものが「情報」になるわけです。このふたつは絡み合いながら、ダイナミックに変化し合っています。ひとことで言えば、社会と人間とのあいだで取り交わされているものの総体=社会科学を学ぶのが情報コミュニケーション学部だといえます。従来の伝統的な大学の学びが、たとえば法学や経済学など社会の既存の制度を中心に学ぶのに対し、情報コミュニケーション学部では、「今までにない新しい視点」「新しい問題解決方法」を創造するための学びです。さまざまなテーマを広い視点から考え、議論することを大切にしています。ひとつのことを深く学びたいという人より、色々なことに興味があって、それらのつながりを学際的な視点で学びたいという人に向いている学部です。

これからの社会で必要とされるのは、社会や組織のニーズを引き出しながら情報をデザインできる人、複数の専門家を結びつけることができるコミュニケーター、そんな人材だと思います。そのためには、人間そのものに対する深い理解、生物学、哲学や思想も必要です。そして異文化や多言語など「多様性」を受け入れるグローバルな資質が重要です。

大学の4年間は、さまざまな思考をめぐらせ、自分の枠を取り払い、大きく幅を広げる時期だと考えています。何を勉強したいか決まっていなくても、受け身ではなく、さまざまなテーマに積極的にぶつかっていく姿勢が重要です。そんな開拓精神あふれる学生にとって、情報コミュニケーション学部はたくさんのチャンスがある学部だと思います。

# 人と社会が見えてくる — 既存の枠を越え新たに視野を広げよう —

情報メディアが著しく発展した現代社会では、あらゆる事象が目まぐるしく変化していきます。従来の価値観やアプローチ方法だけでなく、新しい見方で社会の課題解決に取り組んでいく必要があります。情報コミュニケーション学部では、多様な世界の「知」を学びながら、既存の枠を越えた幅広い視野を養います。



## ▶ 情報コミュニケーション学部の3つの柱

### 1 社会の〈現在〉を捉える

旧来のケータイを抑えての、iPhoneやAndroidに代表されるスマホの大ヒット。TwitterやFacebookなどのSNS（ソーシャルネットワークサービス）の爆発的普及。2012年4月のTVの完全地上波デジタル化。現代社会はネットワーク技術に支えられながら高度情報社会の段階に突入しました。一方、こうした社会の情報化がネット上でのさまざまな犯罪や情報セキュリティの問題を引き起こしたり、政治や経済のありかたに大きな変化を及ぼしてきています。本学部はこうした情報社会の生きた現実と向き合い、問題を探るカリキュラムを用意しています。

### 2 多様で学際的なアプローチ

高度情報社会の問題は、複雑で多岐にわたります。したがって、さまざまな分野の知が協働して問題に取り組まなければなりません。情報コミュニケーション学部では、社会科学を軸にしながら、人文科学や自然科学を取り込んだ学際的 (interdisciplinary) な視点からカリキュラムが組み立てられています。自分が所属する以外のコースの科目も履修できるようになっています。

### 「情報コミュニケーション」って何？

「情報」は、マスメディアや書籍、スマートフォンやパソコンを介してアクセスし取得する静的なもの、他方「コミュニケーション」は、人と人との言葉やジェスチャーを通じた動的な交流です。情報がコミュニケーションを促し、そしてコミュニケーションが新たな情報を生み出す—「情報」と「コミュニケーション」は切り離すことができない、一体化したプロセスだと私たちは考えています。

### あらゆる分野の垣根を越えて 現代の情報社会を探求する学部

現代社会はネットワーク技術に支えられながら高度情報社会の段階に突入しました。その一方で、2011年の東日本大震災・原発事故で露呈した非常時の危機管理問題、中東で連鎖的な政権崩壊をもたらしたジャスミン革命、ネット上でのさまざまな犯罪や情報セキュリティなど、情報社会は多種多様な課題も抱えています。情報コミュニケーション学部は、こうした「情報コミュニケーション」の視座から、高度に情報化し、複雑化した現代の諸課題に学際的な方法でアプローチする学部です。

### 3 創造と表現 (Creation & Expression)

情報コミュニケーション学部では、既存の伝統的な知の蓄積を尊重することと並んで、みなさんが自ら何かを創造し、そして、何らかのメディアを使ってそれを表現することを支援します。論文や文芸などの言語表現、ビデオやアニメなどの映像表現、ダンスやパフォーマンスなどの身体表現、ミュージッククリップやライブといった音楽表現など表現の手段は問いません。カリキュラムでもこうした実践をワークショップのかたちで拡充中です。

※iPhoneは、Apple Inc.の商標です。 ※Android および Android ロゴは、Google Inc.の商標または登録商標です。  
 ※Twitter および Twitter ロゴは、アメリカ合衆国または他国々におけるTwitter, Inc.の登録商標です。  
 ※Facebook および Facebook ロゴは、Facebook, Inc.の商標または登録商標です。

**明治大学**  
**情報コミュニケーション学部**  
 の強み

高度情報社会で  
 活躍する  
 創造的な人材を育成

#### Point 1 4つの視点で人と社会にアプローチするコース制

「社会システムと公共性」「組織とコミュニティ」「多文化と国際協調」「メディアと環境」の4コース制に分かれ、自らのテーマについての研究を深めていきます。自分が所属する以外のコース科目の履修も可能です。  
 ▶詳細は P.13～16

#### Point 2 多様な水準におけるコミュニケーション教育

言語やメディア、身体などさまざまな媒体を通してのコミュニケーションを学ぶ科目や、社会のグローバル化において求められる外国語教育、学部独自の国際交流参画プログラムも用意されています。  
 ▶詳細は P.07～08、19～22

#### Point 3 1年次から4年次まで段階的に履修するゼミナール科目

1年次から4年次までのすべての学年にゼミナール科目を配置。問題の発見から解決までの過程を自ら主体的に学ぶことを大切にしています。学生と教員がコミュニケーションをとりながら、基礎から専門的分野まで学びます。  
 ▶詳細は P.05～06、17～18

#### Point 4 各界の専門家を随時招いて開催する講座

さまざまな分野の専門家を招き、連続講義をしてもらう学部独自の必修科目「情報コミュニケーション学」や「総合講座」、情報技術を取り巻く最先端の情報や技術について具体的な事例を学ぶ「先端講座」を設置しています。  
 ▶詳細は P.06、19～20

# 自分自身で「問い」を立て、 多角的な視点から アプローチする楽しさを学ぶ

## 思考力が鍛えられる “情コミ”のゼミ授業

大学での勉強は講義を聞くだけではありません。自ら課題を見つけ、どのような過程や方法で解決するかという思考力が問われます。本学部では、1年次からゼミナール形式の授業を設け、その力を養います。

### 自分で発見した現代社会の課題を あらゆる方向から見つめ直す

世の中の諸問題に対する“正解”は、必ずしもひとつとは限りません。環境や条件、望む結果によって取り組み方は変わってきます。知識をやみくもに詰め込むだけではなく、自ら「問い」を見つけ、あらゆる視点からのアプローチを試みつつ、積み重ねた知識を再構築して課題解決を図るというノウハウは、社会に出れば必ず求められるスキルなのです。情報コミュニケーション学部では基礎固めの時期である1年次からゼミナール形式の授業が用意されており、4年間で基礎・問題発見・問題分析・問題解決と段階的に習得できるようになっています ▶P17。

南後由和先生の授業は“都市”をテーマにワークショップ形式で行われ、都市がはらむ問題と可能性を多様な方法論で発見し、新しい都市ビジョンを提案していきます。「データの収集・分析、

ヒアリング、フィールドワーク、ディスカッション、プレゼンテーションをひとり経験することで、将来どのような分野に進んでも、個で調査、計画、立案できる基礎体力を養うとともに、創発的な協働のあり方を体得します」(南後先生)

この日は学生たちが、プロジェクトごとに研究結果のプレゼンテーションを行いました。各プロジェクトの発表後は全員でディスカッションが行われ、鋭い指摘や質問が出てきます。活発な意見が飛び交い、議論は夕方まで続くことも。ワークショップを進める過程では、社会学者や建築家、グラフィックデザイナーといった第一線で活躍する専門家を招き、調査の方向性についてアドバイスを受ける機会もあります。論議だけではなく現況を知ったうえで、自分で考えて提案を出すことができます。ブラッシュアップを重ねた報告書は、1月に区長や外部の専門家を招いた「最終発表会」で発表されます。

自分が発見した課題が実際のまちづくりにいかされるかもしれない、そんな期待がふくらむ授業です。

### ▶ 明治大学で育ててほしい“個”とは？

#### MESSAGE

南後 由和 専任講師

高校までは、与えられた問題にいかにか正解するかを訓練してきたと思います。大学では、自ら問いを立て、正解のない問いに多角的な視点からアプローチする楽しさを味わってください。現代社会は、ひとつの専門分野だけでは解決できない複雑な問題が山積しています。本学部の学際性豊かな授業を通して、既存の枠組みにとらわれずに異分野へ架橋していく貪欲さを身につけ、現代社会にあふれかえる膨大な情報を独自のモノサシで編集する力を養いましょう。

PROFILE  
2008年東京大学大学院情報学府博士課程単位取得退学。東京大学大学院情報学環助教、同特任講師を経て、2012年より明治大学情報コミュニケーション学部専任講師。研究テーマは「都市とメディア、建築と社会に関する理論的・実践的研究」。



正解のない  
問いに向き合う

#### STUDENT VOICE

### この授業は、僕にとっては「基礎力養成所」 貪欲に学ぶ仲間と過ごす、刺激的な時間です

3年  
川本 直也  
埼玉県立  
川越高等学校卒業



都市論という学際性の高い分野なので、自分が興味・関心のあるテーマを、文献やフィールドワークを駆使しながら、広く深く研究できる点が魅力です。学生一人ひとりが自身の限界を定めず、それぞれの研究に対して貪欲に向き合っているため、とても刺激的な時間が過ごせます。

この授業は、僕にとっては「基礎力養成所」です。データの読み解き方、資料作成

時の作法、ディスカッションを活性化させる技術、そして何よりも強靱な忍耐力……社会に出るうえで必須となる基礎力を培える場だと感じています。卒業後の進路はまだ明確ではありませんが、情報コミュニケーション学部の特徴である「学際性」をいかし、人と人、異分野同士を結ぶ架け橋となるような「仲介者」の役割を担いたいと考えています。



ディスカッションではさまざまな視点からの意見が出され、新たな課題が見つかることもあります。お昼に始まった授業は夕方までおよぶこともあるほど、学生たちは熱く話し合います。



資料を読むだけでなく、実際に現地へ足を運びます。現状を知ることで新たな企画を考えることもできます。

#### PICK UP

#### 注目授業

### 興味のあるテーマをもとに 思考力・実践力を鍛えていく 「情報コミュニケーション学」



「情報コミュニケーション学」は、3年次に通年で受講する必須科目です。何人もの教員が“コーディネーター”として授業内容を設定しており、同じ名前の科目でも、コーディネーターの教員が違えば授業内容もまったく異なるほど、バラエティ豊かで学びがいのある内容がそろっています。

学生は多様なテーマから、自分の興味ある授業を選ぶことができ、そのテーマが複数の講師によって、さまざまな分野

から多角的に料理される様を目の当たりにします。そして学生同士でグループ討議し、分野横断的な協力作業を重ね、自発的に深く考えていきます。その作業を通して、協調性やコミュニケーション技能をも磨きます。

ただ講義を聞いているだけではなく、実践的に取り組むことで、あらゆる方向から物事を見つめ直し、新しい解決法を生み出せるような思考力が鍛えられているのです。

# さまざまな手法を駆使した「表現」を実践し、コミュニケーションの輪を広げる

## Art Live Rally

価値観の多様化する現代において、人と人はどのように共生することができるのでしょうか。波照間ゼミは単なる情報のやりとりとは異なる「アート(芸術)」を使ったコミュニケーションのあり方を探り、実践する場です。

### “アートコミュニケーション”を通じて多様な人々につながる

スマートフォンやSNSの普及をはじめとする情報化が人々の生活をより便利で豊かなものにする一方で、人間と人間が直接相対する機会、特に異なる世代や価値観をもった人同士のコミュニケーションは希薄になりつつあるのではないのでしょうか。

波照間ゼミでは、教育、医療、町づくり、国際交流など、さまざまな場面で人と人との出会いを演出しコミュニケーションのきっかけを提供する「アート(芸術)」に着目。現代社会におけるその役割や課題について日々、研究や議論を重ねています。現地調査や現場に携わる人の体験を聞くことはもちろん、ゼミ生自らが企画運営、作品発表まで行うアートイベントも開催。中でも2014年度で6回目を迎えた『神保町 Art Live Rally』は、本学駿河台キャンパス周辺の地域の人々と学生との貴重な交流の場と

して地元に着しつあります。

2014年12月初旬に行われた韓国・成均館大学芸術学科との交流会では、ゼミ生たちが2週間後に迫った『神保町 Art Live Rally』のために準備してきた映像やパフォーマンスを発表する機会が設けられました。古書店街として知られる神保町界隈の魅力を紹介するイメージ映像、ふたりの男子学生によるコミカルなパントマイム、リズム感あふれるダブルダッチ、そしてカラフルな映像を投影しながら見せるテクノポップ・ダンス。近隣の子どもやお年寄りとの交流を前提に練られた4つの演目はどれも明るく、親しみやすいもので、終盤には韓国からの学生たちも交えたダンスの輪ができあがる一幕も。学内から地域へ、さらに国境を越えた交流へ。こうした体験を通じてゼミ生たちは、さまざまなかたちの表現＝アートの実践が、人々の間に横たわる違い、壁を乗り越え、コミュニケーションの輪を広げていく可能性を実感するのです。

MESSAGE

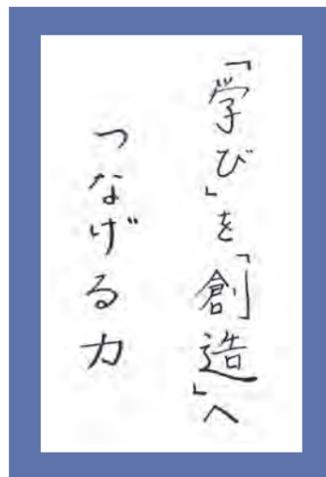
波照間 永子 准教授

情報コミュニケーション学部では、学部の3つの柱として「社会の〈現在〉を捉える」・「多様で学際的」・「創造と表現(Creation & Expression)」を定めています。授業で学ぶ多様なトピックやアプローチを、自らの課題に照らして咀嚼吟味し、その解決法を模索して生み出す「主体性」が求められます。「学び」を「創造」につなげ、あなたの「個」を拓きましょう。

PROFILE

群馬県立女子大学文学部美術史学科講師、早稲田大学スポーツ科学学術院兼任講師などを経て2008年から現職。博士(学術)。専門分野は身体教育学、美学・美術史、文化人類学・民俗学。著書は『近代日本の身体表象』(共著)など。

▶ 明治大学で育ててほしい“個”とは？



ゼミの女子学生たちによるポップ・ダンス。



観客も巻き込んで繰り広げられる愉快的パントマイム。



プロジェクションマッピングの多彩な光とダブル・ダッチの動く影がつくり出す「アート」。

STUDENT VOICE

### アートな視点で地域と交流し、実体験からコミュニケーションを深く学べます

3年  
三木 星悟

東京都立  
三鷹高等学校卒業



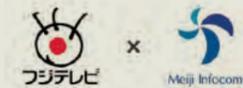
「人と街をつなぐアート」をテーマに、駿河台キャンパスに近い神保町の街や人と交流することに魅力を感じます。芸術作品を通じての交流や体験などにおいて、何が人を動かすのか、どのような人々の工夫や努力があったのかを考えるようになりました。

ゼミの活動では人との交流が多いので、取材協力やイベントなどで信頼関係を築くことの大変さを実感しました。でも、そこが面白いところだとも思うんです。こちらの思いに地域の人が答えてくださると、なんともいえない嬉しさがありますね。

PICK UP

その他の注目授業

### フジテレビ×情報コミュニケーション学部のメディアリテラシー講座「映像表現論」



テレビ番組制作を通じてメディアリテラシーを実践的に身につける「映像表現論」では、撮影方法や取材の段取りを学んだあと、学生たち自ら取材の交渉やインタビュー、撮影を行いVTRを制作します。フジテレビの湾岸スタジオではプロのスタッフの指導のもと、撮影機材等を使って番組を収録。学生たちはキャスターとして出演するだけでなく、番組やスタジオ進行を指示するディレクター、カメラ操作など役割分担し、番組を完成させていきます。



完成した番組の映像は右のQRコードで閲覧可能です。  
※検索サイトへ「情コミ VTR」と入力しても検索できます。



### 情報を“使いこなす”大切さを実践的な学びを通して知りました

3年  
菊池 南帆

千葉県立  
千葉女子高等学校卒業



私はメディアに興味があり、発信する側に立ちたいと思っていました。実際に現場で体験できるこの「映像表現論」では、グループごとにテーマに沿ってVTRを作っていきます。私のグループでは「御茶ノ水の今と未来」というテーマで、誰も知らない御茶ノ水を再発見するというコンセプトのもと制作を進めていきました。私はキャスターとして、ある会員制バーを取材することになったのですが、

取材先の方々とコミュニケーションを取っていくうちに親しくなれたのが嬉しかったです。この授業を通して学んだことは、情報を偏った方向から発信せず意見を取り入れ、複数の視点から再構築していくことです。情報を見極める能力、伝わってくる情報を理解する能力を身につけていくことの大切さを認識できたことは、とても有意義な経験でした。

卒業生と現役生によるパネルディスカッション

# 情報コミュニケーション学部の 原点と現点、そしてこれから

情報コミュニケーション学部は2004年に創立され、2014年に10周年を迎えました。  
10周年記念に催されたシンポジウムでのパネルディスカッションには、  
各業界で活躍する卒業生たちが登壇し、学部の魅力やあり方について語ってくれました。

## 「大学」とは何だったか？

### 情コミOBならではの定義とは

**大黒** いまみなさんは、それぞれの世界で仕事をしているわけですが、現在のみなさんにとって、大学という時間、あるいは大学という空間は、どういうものであったのか。現時点から総括してお話していただければと思いますが、いかがでしょうか。

**濱野** 大学に入って4年間で思ったのが、いろんなことって、いろんな見方があるんだなということだったんです。情コミの授業って、心理学の授業とか、コミュニケーションの授業とか、いろいろあったんですけど、ひとつのことにいろんな答えがあるんだなということ、受験勉強から大学の勉強に切り替わったときに感じるものが多くて、いろんな意見を知るのが好きで、聞いて覚えるようにしていたんです。それが役に立って、いまコント番組をやるときに、いろんな目線というのがすごく役に立っています。そういうのをすごく教えてもらったというか、鍛えてもらった場だと思っています。

**東澤** 英語が話せるようになったら格好いいなと思って、ハウス先生のゼミを選んだんですが、そのゼミが結構厳しいゼミということを知らずに、ハウス先生の笑顔だけで選んでしまったので(笑)、初回のゼミナールでちょっと日本語をしゃべっただけで「日本語、話してんじゃないよ」って、外国の方に日本語で怒られるわけです。こんな怖いことななと思って、そこからゼミの勉強を一生懸命するようになりました。英国を研究したんですが、英国研究といっても、文化だけではなくて、社会システムとか、政治とか、EUとの関係とか、いろんな観点から英国を研究して、英語ってあくまでもツールであって、コンテンツとして何をしゃべるのかとか、自分がどう考えているかというのを国際的に発信するためのツールなんだということに気づけて、いまの仕事にもそれがいかせているので、大学4年間のその出会いが、私にとっては重要

だったかなと思っています。

**櫻井** 私、大学時代のノートをとってあるのもってきたのですが、常に学校に置いてあります。たとえば、今見ると、火曜日の1時限に非言語コミュニケーションの授業で学んだパーソナルスペースの話とかは、よく生徒にしたりします。いろんな授業がいつ役立つかわからないので、大学とはというテーマではなくなってしまうのですが、いつ何が必要かわからないので、みなさんには、いろんなことをメモして、そのメモを捨てることは卒業後いくらでもできるので、いまのうちにいろんな人と出会って話を聞いて、たくさんメモをとって、ノートをとっておくと、将来にいかせる「引き出し」を増やしていけるのではないかと思います。教員をやるときに、1年目に赴任者研修というのに参加するんですけど、まずそこでやった研修が、マナー講座であったり、コミュニケーションとか、プレゼンテーション、すべて大学で習ったことばかりでした。もらった資料もすべて、これ知ってる、この穴埋め全部埋められるという状態だったので、本当に情コミは時代の最先端を行っていたんだなと、時代がやっとな情コミに追いついてきたと、そのときは感じました。

## “何でもあり”が「個」を育て、 明治スピリットを体現する

**大黒** 僕はここで発言しないようにと心に決めていたのですが、あえてひとつだけいけるとすると、大学の効用ということを考えるときに、即効性の効用ってたぶんないと思うんですよ。大学の意義とか、大学の価値というのは、大学を離れてからボディプロミみたいにわかっていくという印象を、僕はもっています。あの時あしてあげばよかったとか、自分が知らないところで効いてくるみたいな、つまり英語を学んだから英語がペラペラしゃべれるようになるというふうな、そういうふうな効



用ではないと思います。だから、いままでのみなさんの答えのように多種多様な受け止め方があり、多種多様な効用が出てきたような気がします。情報コミュニケーション学部にいる僕らに向けてみなさんから、学部はどうあってほしい、あるいはこれからこうなってほしいという要望とか期待がありましたらぜひお聞きしたいと思います。

**山本** いま自分が記者という職業をやっている中で感じることでしょけれども、たぶんおそらくどんな職業でもそうだと思うのでしょけれども、情コミ4年間で問題意識をもって何かを考えていくという作業をしていくような、そういう学部であってほしいと思っております。たとえば、記事を書くときにどう書くかというのは、その個人の記者の問題意識であって、それぞれ書き方とか全然変わってきてしまうのでしょけれども、これってトレーニングしないと問題意識をもつことができないと思っております。情コミには多岐にわたるカリキュラムがあって、社会に行くと、自分の興味のあることだけではなくて、ほかのこともやらなければならなくて、それに対して問題意識をもたなければいけないので、いろんな授業の中で、何か問題意識をもって取り組んでほしいなと、そんな学部であってほしいなと思っております。

**石田** 訳のわからない学部であってほしいなと思います。いい意味でいっているんですけども、さっき東澤さんがおっしゃっていたように、この学部ってどういう学部？と聞かれて、説明できちゃったら負けかなと、逆に思っていて、説明できないからこそ、全員に聞いたら、全員違う答えが返ってくるぐらいが、ちょうどいいのかなと。明治の「個」を強くするとか、「前へ」とか、そういうスピリットみたいなのが体現できているのって、情コミなんじゃないかなという感じがしているので、文学部だったら文学をやらなければいけないとか、法学部だったら法律をやらなければいけないとか、そういうのが永遠に定義されないのが、たぶん情コミの意義というか、あるべき姿というか、なんじゃないかなと思っています。

## 情コミで得た学際的な視点と思考力で 卒業後は“スーパー○○”を目指せ

**大黒** みなさんの意見を聞いていて、非常にありがたいというか、我が意を得たりというか、僕が少なくとも情報コミュニケーション学部に対

して抱いている理念というか、イメージというのが、きちっと伝わっているというのを確認できて、非常に感動しています。これから野心も野望もあると思うんです。これからどういふうなことをやっていきたいかということ、ぜひお聞きしたいと思います。

**窪田** 堅い回答で申し訳ないんですけど、仕事柄の話をさせていただきますと、私はノンキャリアのほうなので、企画立案だとかそういうところにはなかなか携わり難いです。部署の都合上どうしてもしょうがないところがあるんです。そこで意図地になっているところもあるのでしょけれども、私は学際的なものをいかしまして、スーパー事務さんになってやろうと。誰にも負けない事務になってやろうと思っています。よく同期に言うと、そんなの誰でもなれるよ。バカじゃないのと笑われますが、私はそれを一貫して貫こうと思っています。

## 素直は必ずしも美德ではない 時には自身を強く押し出していこう

**西深澤** 話を聞いていて思ったんですけど、先ほどからみなさん、情コミはすごく幅広い学問なので、自分から動けばいろんなことが学べるとおっしゃっていたと思うんです。いま私は学生なので、いまを必死に生きているんですけど、卒業したいまだからこそ、大学のときに心掛けるべきことを教えていただきたいと思っています。

**渡** こうした場でいろんな方の話を聞いたりとか、自分で自ら歩いていろんなところに行って話を聞いたりすることって、たくさんこれからあると思うんです。そこで大事なのは、「はあ、なるほど」と受け取るのではなくて、こいつ何言ってるんだぐらいに否定的に、俺だったらこうするという、そういう反骨精神みたいなのを抱いていただきたいなと思います。正直、僕もきょう聞きながら、みなさんさすがだなと思っていたんですけど、家に帰ると、いやあれは違うな、みたいなふうになると思うんです。みなさんも、どんどん上に噛みついていくような姿勢を、そういうファイティングスピリッツをもって大学生活を過ごしていただきたいと思っています。

●誌面の都合上、パネルディスカッションの一部を掲載しています。すべての内容が掲載された「完全版」は以下のホームページで読むことができます。

[http://www.meiji.ac.jp/infocom/outline/copy\\_of\\_introduction.html](http://www.meiji.ac.jp/infocom/outline/copy_of_introduction.html)



## PANELIST

### 登壇者紹介



**大黒 岳彦** 教授  
研究テーマ：「メディア」と「情報」の思想・哲学的研究  
担当：「哲学」「メディア論」



**濱野 慎司** 氏  
日本放送協会エンターテインメント番組部ディレクター  
(2008年3月卒業)



**東澤 諭佑** 氏  
明治大学国際連携部職員  
(2008年3月卒業)



**山本 佳孝** 氏  
毎日新聞社中部報道センター事件グループ記者  
(2008年3月卒業)



**櫻井 裕美** 氏  
神奈川県立秦野曾屋高等学校教諭  
(2009年3月卒業)



**石田 裕亮** 氏  
バンダイナムコゲームス®社長室新規事業部コンサルタント  
(2009年3月卒業)  
※現・バンダイナムコエンターテインメント



**窪田 徹** 氏  
文部科学省初等中等教育局職員  
(2009年3月卒業)



**渡 航** 氏  
ライトノベル作家  
(2009年3月卒業)



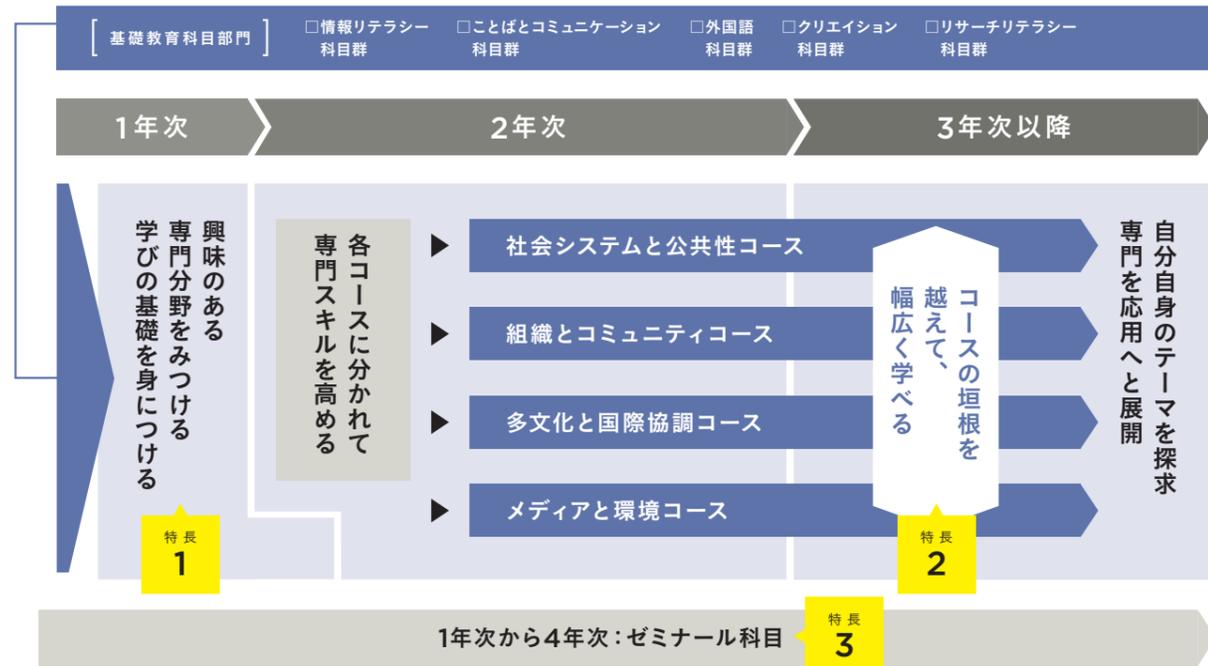
**西深澤 史恵** (4年)  
ゼミナール協議会前委員長

# 情報コミュニケーション学部の 4年間で学べること

高校時代と違い、大学での学びは主体的なものです。

ひとから強制されたり上から押し付けられたりするような学習は大学の本来の学びとは無縁のものです。

本学部はみなさんの主体性を最大限に尊重し、また伸ばすことを目的としたカリキュラムを組んでいます。



※ 3年次には、コース共通科目「情報コミュニケーション学」で、コースの垣根を越えた横断的で学際的な連続講義を開講します。

## 学びの3つのポイント

### 特長 1 ふたつの学びの柱と柔軟なコース制

情報コミュニケーション学部のカリキュラムは、基礎教育科目部門とコース科目部門のふたつの部門が柱となり、それぞれが学部の特徴的な科目によって構成されています。みなさんは入学後、学びの基礎を身につけながら、幅広い選択肢の中から自分の興味関心のあるテーマをみつけていきます。学年が進むにつれて4つのコースからひとつを選び、自らの興味関心のあるテーマについての研究をより深めていくこととなります。もちろん自分が所属するコース以外の科目も履修可能です。積極的に複数の領域への知的関心を広げ、自分の研究に組み込むことができます。

### 特長 2 学際的 学問分野を段階的に

学部独自の必修科目として1・2年次に「情報コミュニケーション学入門A～D」、3年次に「情報コミュニケーション学」を置き、本学部が目指す情報コミュニケーション学という学際的学問分野を段階的に学習できるようにしています。

### 特長 3 全学年に ゼミナール科目を設置

1年次から4年次までのすべての学年にゼミナール科目を配置し、問題の発見から解決までの過程を自ら主体的に学べるようにしています。

## [ カリキュラム体系図 ]

	1年次	2年次	3年次	4年次
ゼミナール科目群	基礎ゼミナール	問題発見テーマ演習A・B	問題分析ゼミナールI・II	問題解決ゼミナールI・II
情報リテラシー科目群	ICTエレメンタリー ICTベーシックI・II ICT統計解析I・II ICTデータベースI・II ICT総合実践I・II	ICTメディア編集I・II ICTアプリ開発I・II ICTコンテンツデザインI・II ICT総合実践I・II	ネットワーク技術II・III	ネットワーク技術IV アルゴリズム実習I・II
ことばとコミュニケーション科目群	日本語表現A(作文)・B(文章理解) コミュニケーション基礎I・II	日本語表現C(口頭表現)・D(総合) コミュニケーション応用I・II	デジタルプレゼンテーション パブリックスピーキング 非言語コミュニケーション 談話コミュニケーションI・II	
外国語科目群	English Skills A I・II (基礎 中級 上級) English Skills B I・II (基礎 中級 上級) Speech & Debate I・II	Critical Reading Critical Discussion Critical Writing I・II	English Seminar I・II 英語コミュニケーションI・II 英語音声学	
クリエイション科目群	ドイツ語A I・II ドイツ語B I・II フランス語A I・II フランス語B I・II スペイン語A I・II スペイン語B I・II 中国語A I・II 中国語B I・II	韓国語A I・II 韓国語B I・II タイ語A I・II タイ語B I・II 日本語A I・II 日本語B I・II (外国人留学生のみ)	ドイツ語IV (総合) ドイツ語III・IV (講読) ドイツ語III・IV (会話) フランス語III・IV (総合) フランス語III・IV (講読) フランス語III・IV (会話) スペイン語III・IV (総合) スペイン語III・IV (講読) スペイン語III・IV (会話) 中国語III・IV (総合) 中国語III・IV (講読)	中国語III・IV (会話) 韓国語III・IV (総合) 韓国語III・IV (講読) ドイツ語V・VI ドイツ語演習 フランス語V・VI フランス語演習 スペイン語V・VI スペイン語演習 中国語V・VI 中国語演習
リサーチリテラシー科目群	メディア・リテラシー 演劇学、美学・芸術学、音楽論	身体コミュニケーションA・B メディア・アート	デジタルアートI・II メディア言語論	
コース学際科目群	科学リテラシー 数理リテラシー	論理リテラシー 統計学A・B	社会調査法A・B	社会調査実習、質的調査分析法 データ解析論I・II
コース共通科目群	社会科学 人文科学 情報科学	情報コミュニケーション学入門A～D 国際交流	(学際講義)情報コミュニケーション学	
コース専門科目群	ウェルネス科目群 キャリアデザイン科目群 総合講座 国際教育プログラム科目	ウェルネスA、ウェルネスB キャリアデザイン 総合講座A・B・C・D、先端講座	ウェルネス・スポーツA、ウェルネス・スポーツB インターンシップ入門 インターンシップ	ウェルネス・スポーツC、ウェルネス・スポーツD インターンシップ ジェンダーを考える(総合講座)A・B
	基幹科目(異文化理解)I・II、基幹科目(文化・歴史)I・II、基幹科目(法律・政治)I・II、基幹科目(経済)I・II			

## PICK UP 英語コミュニケーション能力特別強化プログラム「SPICE」

情報コミュニケーション学部では、国際情報社会に対応できる言語力とコミュニケーション能力を身につけた学生を育成するために独自の特別英語クラスSPICE(Special Program for Information & Communication in English)プログラムを2014年度より設置しました。2013年度から高校の英語に「コミュニケーション英語」が導入されたように、直読直解や、単なる会話以上の内容を議論できる能力が求められていきます。SPICEは、20人以下の少人数選抜クラスで、英語でコミュニケーションができる学生を養成します。このプログラムを通じて、海外大学(院)留学や国際社会で活躍できる人材の育成を目指します。

- コミュニケーション能力重視・内容中心 (content base) の授業**  
英語で「スピーチ」「ディベート」「ディスカッション」ができる学生を育成します。会話のためのコミュニケーションに限らず、専門分野の講義を英語で行うセミナーなども受講してもらいます。
- 経験豊かな教員陣**  
ネイティブ・スピーカーや海外留学経験のある教員による実践的な授業を行います。自習時間の指導についても、ホームワークを効果的に取り入れます。自身の経験をふまえ、国際社会で活躍することや英語科教員、海外留学進学への道筋も示します。
- 留学マインドの醸成**  
英国ケンブリッジ大学や米国メンフィス大学など、海外の名門大学への夏期留学を通じ、将来の長期留学を目指す指導を行います。

## [ 早期卒業制度 ]

明治大学情報コミュニケーション学部では、成績が特に優秀な学生を対象に早期卒業制度を導入しています。明治大学大学院情報コミュニケーション研究科をはじめ、そのほかの大学院への進学を希望する学生は、3年次終了時に大学卒業資格(学士)を得て、進学することが可能です。

現代社会における規範・秩序の急速な変動と、  
それに対する社会的な処方、法学・政治学を中心に考える



法や秩序といった社会の構造や制度、合意形成のプロセスを理解するために、情報通信技術の発展をふまえながら現代社会システムを法学・政治学を中心に多角的・総合的に学びます。

[ コース専門科目 ]

	1年次	2年次	3年次	4年次
コース 共通科目 (必修)	情報コミュニケーション学入門A			
コース 科目群	憲法、市民社会と法I・II 犯罪と法I・II 情報社会と経済 環境と社会		情報社会論I・II、リスク社会論、 知的財産法I・II 情報法、情報政策論A・B 人権と憲法I・II、財産と法I・II 現代型犯罪と刑法I・II、 紛争解決システム論I・II 国際関係論I・II、 行政法と行政過程I・II 政策過程論、公共政策A・B 人権政策、環境政策I・II ジェンダーと法I・II、 法コミュニケーション 少年犯罪と法、家族と法I・II	

PICK UP 注目授業

現代の情報社会の課題にアプローチ

知的財産法  
I・II

今村 哲也  
准教授



この授業では、創作的表現をめぐる関係人の利害を調整する法制度である「著作権法」、技術的創作に関する情報を生み出した者に独占を許す法制度である「特許法」を中心に解説します。授業を通してある程度の専門的知識と応用力をつけることにより、知的財産に関する諸問題に直面した際に、自ら調べ、考えられるだけの力を身につけることを目標としています。

STUDENT VOICE

やりたいことを  
探しながら学び、  
自分をいかせる道を  
目指したい



社会システムと公共性コース3年  
五十嵐 由香莉  
新潟県立新潟高等学校卒業

Q 社会システムと公共性コースを選んだ理由は？

Answer 4コースすべてに興味があったのですが、コース選択当時は公務員志望だったからです。さまざまな法学や政治学を学ぶことで、現代社会を見直す上で大いに役立っていると感じています。コース科目にこだわらず、本当にやりたいことを探しながら幅広く学べるのが大きな魅力です。

Q 印象に残っている授業を教えてください。

Answer 「国際関係論」です。二度の大戦や冷戦など、今の国際情勢につながる歴史的な出来事について学びました。先生の解説のおかげで、ニュースを見る時には、因果関係を念頭に置きながら、国際関係にどう関係するのかと考えるようになりました。

Q 将来の目標や目指す進路は？

Answer 公務員志望でしたが、この学部でたくさんの分野に触れ、マスコミや出版、印刷業界にも興味をもちました。今、どんな職業が向いているのかと自己分析の真っ最中です。学んで培ったことを無駄にせず、自分をいかせる職業につきたいです。

[ Aコース学生の時間割参考例 ] 科目名の上段は春学期、下段は秋学期

国際関係、特に法的、政治的問題に関心があるのでAコースを選択。一方で、国際問題を解決するのに文化の多様性という観点も不可欠だと考えているので、Cコースの関連科目も履修。

	月	火	水	木	金	土
1	リスク社会論 法コミュニケーション	-	-	-	-	-
2	-	-	-	国際協調論	公共政策A 公共政策B	-
3	少年犯罪と法 政治とメディア	財産と法I 財産と法II	異文化間コミュニケーション	-	-	-
4	-	国際関係論I 国際関係論II	組織と情報	-	知的財産法I 知的財産法II	-
5	-	-	多文化と相互理解A 多文化と相互理解B	人権政策	-	-
6	-	地域文化論(英語)A 地域文化論(英語)B	-	-	-	-

■Aコース科目 ■Bコース科目 ■Cコース科目 ■Dコース科目

人間集団を支える仕組みを、経済学、経営学、社会学を基礎に、  
ミクロな視点とマクロな視点から理解する



ミクロ・マクロの両観点から情報社会における人間集団を支える仕組みを理解するために、経営学や社会学を基盤としながら、組織と個人のコミュニケーションのダイナミクスを包括的に学びます。

[ コース専門科目 ]

	1年次	2年次	3年次	4年次
コース 共通科目 (必修)	情報コミュニケーション学入門B			
コース 科目群	社会学A・B、会計学 経営学、組織論 コミュニティ論 小集団コミュニケーション 社会心理学I・II		ネットワーク社会論、組織と情報 組織コミュニケーションA・B コミュニケーション思想史 都市社会学、ソーシャルビジネス論 ビジネスと法A・B コーポレート・ガバナンスI・II 金融システム論I・II 意思決定論I・II 社会福祉学A・B、NPO論 ユニバーサルデザイン 情報社会と教育A・B、情報産業論、 ジェンダー・マネジメントI・II 家族社会学I・II、家族心理学	

PICK UP 注目授業

あらゆる“つながり”を探っていこう

ネットワーク  
社会論

中里 裕美  
専任講師



人と人、人と集団、あるいは集団と集団の間を結ぶ社会的つながり(社会ネットワーク)への理解を深める科目です。ネットワークがどのように私たちの社会生活に関わっているのか、行動や思考にどんな影響をおよぼすのかを理解することは重要です。社会ネットワーク分析と呼ばれる、つながりの質やパターンを計量的に分析する手法の基礎を実習します。

STUDENT VOICE

多様な  
選択肢から  
学びたいことを  
絞っていける



組織とコミュニティコース4年  
弘重 裕子  
埼玉県私立西武学園文理高校卒業

Q 組織とコミュニティコースを選んだ理由は？

Answer 1年の頃から学生団体に所属しており、組織がうまく機能するためのアプローチ方法を学びたかったので、このコースを選択しました。ゼミ活動も多種多様。私が所属したゼミでは、村の魅力を発信するという側面から、過疎化した村を復興させる「村興し」に参加しました。

Q 印象に残っている授業を教えてください。

Answer 水村典弘先生の「コーポレート・ガバナンス」は毎回90分の授業がとても充実していて、企業経営の仕組みが非常にわかりやすく頭に入りました。また、ミニテストも実施されるので、効率よく学ぶことができます。

Q 将来の目標や目指す進路は？

Answer 4年間ゼミや課外活動を通じて、多くの明大OB・OGが各々のフィールドでキャリアを積み重ね、活躍されていることを実感しました。私も卒業後は先輩方が築き上げてきた伝統に恥じぬよう、社会に貢献し、自分が信じる道で活躍していきたいです。

[ Bコース学生の時間割参考例 ] 科目名の上段は春学期、下段は秋学期

将来はマーケティングにかかわる仕事をしたいのでBコースに所属。仕事には法律や政治の知識も必要だと思うので、Aコースの科目も選択。

	月	火	水	木	金	土
1	法コミュニケーション	-	-	意思決定論I 意思決定論II	-	-
2	行政法と行政過程I 行政法と行政過程II	経済発展論I	-	-	公共政策A 公共政策B	-
3	組織コミュニケーションA 組織コミュニケーションB	コーポレート・ガバナンスI コーポレート・ガバナンスII	政策過程論	金融システム論I 金融システム論II	-	-
4	-	ネットワーク社会論	組織と情報	情報と経済行動	-	-
5	ビジネスと法A ビジネスと法B	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-

■Aコース科目 ■Bコース科目 ■Cコース科目 ■Dコース科目

文化や社会の多様性を体系的に学び、異文化を理解するとともに自文化も理解し、伝え表現する方法を習得する



世界のさまざまな地域における多文化の言語・歴史・地理・宗教的な文化基盤を知り、グローバルな規模で対話や相互理解を実践するための知識やコミュニケーションを幅広く、体系的に学びます。

[ コース専門科目 ]

	1年次	2年次	3年次	4年次
コース 共通科目 (必修)	情報コミュニケーション学入門C			
コース 科目群	比較文化(基礎)A・B、ジェンダー論 地理学、西洋史 東洋史、異文化理解・適応 異文化コミュニケーション史		異文化間コミュニケーション 多文化と相互理解A・B 経済発展論I・II、経済統合論 国際協調論、都市情報論 情報文化論、社会文化史I・II ジェンダー文化史 国際社会とジェンダー 日本文化論A・B 地域文化論(英語圏)A・B 地域文化論A～D 比較文学・比較文化A I・A II 比較文学・比較文化B I・B II 人文地理学、自然地理学	

PICK UP 注目授業

多文化のなかで日本のあり方を知ろう

日本文化論  
A・B

細野 はるみ  
教授



グローバル化の進展が著しい現代社会では、さまざまな社会や文化が存在することについて学び、世界の多様性を理解することは必須です。それには自分の置かれた状況をよく知る必要がありますが、多様な文化の姿と比較して「自らを知る」ことは大事です。具体的事例を使って、日本語社会の成り立ちや特徴をはっきり自覚できるようになることを目指します。

STUDENT VOICE

異文化理解、  
コミュニケーション力、  
論理的思考能力を  
鍛えて自分のものに



多文化と国際協調コース3年  
李 厚政  
韓国釜山市私立培正高等学校卒業

Q 多文化と国際協調コースを選んだ理由は？

**Answer** 今日のグローバル社会の中で求められるのは、異文化を理解する力とコミュニケーション能力だと思います。自文化と異文化を理解できるよう努力することを通じて、異文化間のコミュニケーションを理解できるようになり、異なる文化との触れ合い方を学べると思ったからです。

Q 印象に残っている授業を教えてください。

**Answer** 「日本文化論A・B」です。古代日本語から現代日本語に至るまでの資料をもとに、日本語の隠された特徴と社会と共に変わってきた日本文化と日本語について学びました。グローバル時代における「日本と自分」のあり方について知ることができました。

Q 将来の目標や目指す進路は？

**Answer** このコースで外国語(特に英語)が上手くなり、また論理的思考能力とコミュニケーション能力を鍛えられました。身につけた外国語運用能力・異文化理解能力をいかしてさまざまな国の人々と協力しながら新たな資源開発に挑みたいです。

[ Cコース学生の時間割参考例 ] 科目名の上段は春学期、下段は秋学期  
異なる文化の人たちが手を取り合っていく方法を、マスメディアやソーシャルメディアの点から考えたいので、Cコースに所属しつつDコースのメディア関係の授業を履修。

	月	火	水	木	金	土
1	比較文学・比較文化A 比較文学・比較文化B	多文化と相互理解A 多文化と相互理解B	-	-	-	-
2	-	経済発展論I 経済発展論II	-	国際協調論	-	-
3	メディア論 政治とメディア	-	異文化間コミュニケーション	日本文化論A 日本文化論B	メディア批評	-
4	-	身体表現論	ソーシャルビジネス論	-	紛争解決システム論I 紛争解決システム論II	-
5	-	-	-	メディアの歴史	-	-
6	-	地域文化論(英語圏)A 地域文化論(英語圏)B	-	-	-	-

■Aコース科目 ■Bコース科目 ■Cコース科目 ■Dコース科目

マスメディアやメディア技術と人間をとりまく環境を総合した「広義のメディア」の視点から、社会と人間を捉える



人間を取り巻く自然・技術・社会といった環境の総体を「メディア」として広く捉え、情報社会時代における人間とメディアの関係を、自然科学的なアプローチも含めて多角的に学びます。

[ コース専門科目 ]

	1年次	2年次	3年次	4年次
コース 共通科目 (必修)	情報コミュニケーション学入門D			
コース 科目群	哲学、生命論I・II 人類学A・B、心理学A・B、 脳科学、環境科学		メディア論 マスメディアコミュニケーション論A・B ジャーナリズム論I・II 政治とメディア、メディア批評 メディアの歴史、不確実性下の人間行動 情報と経済行動、情報社会と出版 情報社会と芸術、記号論、広告論 生命思想史I・II、認知科学 情報行動の心理学 不思議現象の心理学、人間性心理学 環境心理学、身体と意識、身体表現論、 造形表現論、音楽表現論 映像表現論、アート・マネジメント	

PICK UP 注目授業

「メディア」を深く広く探求しよう

メディア論

大黒 岳彦  
教授



「メディア」でイメージされるのは、テレビや新聞、ソーシャルメディア等だと思います。この講義での「メディア」の範囲はもっと広く、「ことば」(会話・文字)や身体(ジェスチャー・身だしなみ)、人がもっている「空気」もメディアといえるのです。「メディアとは何か?」という、情報コミュニケーション学にとって重要な問題を、じっくり考えてみませんか。

STUDENT VOICE

マスメディアの  
特性を深く学び、  
情報に囲まれた人間の  
環境を知る



メディアと環境コース3年  
久保 智洋  
富山県立滑川高等学校卒業

Q メディアと環境コースを選んだ理由は？

**Answer** 現代の情報社会において重要視される「情報に対する考え方や対応力」を身につけ、情報と深い関係にあるコミュニケーションについても学べるからです。入学時は将来について何も考えていませんでしたが、情報について学んでいくうちに、メディアにとっても興味をもちました。

Q 印象に残っている授業を教えてください。

**Answer** 「映像表現論」で、テレビ番組を模したVTRを実際に作りました。自分たちで構成を考え、取材する人やお店へ事前に依頼してから取材しました。何気なく見ている番組は多くの時間と労力をかけてつくられていることを実感しました。

Q 将来の目標や目指す進路は？

**Answer** 授業でテレビや新聞などのマスメディアによく触れるようになり、注意深く見たり読んだりするようになりました。将来はマスメディア業界に入り、世の中の情報を伝える側に立ちたいと思っています。

[ Dコース学生の時間割参考例 ] 科目名の上段は春学期、下段は秋学期  
将来はジャーナリストになりたい。幅広い知識が必要だと思うので、Dコースに所属しつつ他のコース科目も万遍なく履修。

	月	火	水	木	金	土
1	地域文化論C	-	-	組織論	-	-
2	ジャーナリズム論I ジャーナリズム論II	マスメディアコミュニケーション論 マスメディアコミュニケーション論	-	-	人権と憲法I 人権と憲法II	-
3	メディア論	-	情報社会論I 情報社会論II	NPO論	メディア批評	-
4	-	映像表現論 音楽表現論	情報産業論	情報と経済行動 不確実性下の人間行動	-	-
5	-	-	-	-	-	-
6	-	広告論 経済統合論	-	-	-	-

■Aコース科目 ■Bコース科目 ■Cコース科目 ■Dコース科目

# ゼミナール教育で得られる「学び」の醍醐味

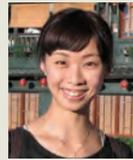


ゼミナール（略称「ゼミ」）は、10～15名程度の比較的少数の学生がひとりの教員とともに、通常の大教室の授業では得られない双方向のコミュニケーションをとりながら学んでいきます。大学で学ぶことの初歩から専門的分野、資料の読み方や議論の仕方、レポート・論文の作成、プレゼンテーションまで幅広く、学んでいきます。大学における「学び」の醍醐味が得られるのがゼミナールなのです。本学部では、1年次から4年次まで段階的に履修するゼミナール科目を設置しています。1年次は基礎ゼミナール、2年次には問題発見テーマ演習、3年次には問題分析ゼミナール、4年次には問題解決ゼミナールが置かれています。3・4年次は2年間一貫して同一のゼミを取らなければなりません。

## ■ 学年ごとに所属ゼミを変えた場合

視野を広げ、  
多様な考え方を知り  
自分の興味関心を  
クリアにできた

4年  
鈴木 麻里菜  
埼玉県立  
蕨高等学校卒業



●なぜ、学年ごとに異なるゼミを選択しようと思ったのか教えてください。

現代社会を深く理解したいと思っていた私は、まず広い視野をもとうと考えました。1年次のゼミでは、日本なら当然の労働環境が外国では異なることを知るなど、日本を他国と比較することにおもしろさを感じました。2年次では国や文化の違いから現代社会を考えるゼミを選択。3・4年次は、2年次に興味をもったテーマを掘り下げて研究でき、4年間の集大成として卒業論文があるゼミにしました。

●学年ごとに異なるゼミに所属して、よかったことは何ですか。

漠然としていた自分の興味関心が、いくつかのゼミを経験することで明確になりました。同時に、幅広い知識を身につけられたと思います。また、色々なタイプの人と出会い、自分には無い考え方を知ることができました。大教室での講義とは違い、自分の考えをまとめて人に伝えるという機会が多いのもゼミならではです。4年間のゼミを通してよい経験となりました。

1年次

吉田 恵子ゼミ

「働くことの意味を考えよう。」

2年次

田中 洋美ゼミ

「社会変動論～現代社会の実践について考える。」

3年次

中里 裕美ゼミ

「つながり(社会ネットワーク)の研究。」

4年次

## ■ 4年間 同一ゼミに所属した場合

先生やゼミ生と  
距離感が近く、  
なんでも話し合える

4年  
荘司 健悟  
東京都私立世田谷学園  
高等学校卒業



●なぜ、このゼミを選択しようと思ったか教えてください。

企業や学校といった大きな組織から、サークルやアルバイトなどの小さな組織まで、誰もが何らかの形で属している「組織」を、社会学を通して学ぶことで、今後自分がどのように貢献していけるかを知りたいと考えました。実は、次年度のゼミを選択する2年の冬に、もうひとつ受けるかどうか迷ったゼミがありましたが、先生の人柄に惹かれて継続することに決めました。

●4年間を通して同一ゼミに所属して、よかったことは何ですか。

先生との関わりが希薄になってしまう大学時代に、なんでも気軽に話せる先生の存在は貴重だと思います。授業では企業の不祥事など社会問題を取り上げるのですが、グループワーク形式で原因を探る力を身につけることができました。また、ゼミ生同士も仲が良く、ご飯に行ったり、休みの日にBBQをしたりします。ゼミ生と先生との距離感は、情コミで一番近いのではないのでしょうか(笑)。

1年次

2年次

3年次

4年次

竹中 克久ゼミ「組織社会学」

## PICK UP ゼミナール

### 塚原 康博 ゼミナール

#### 現代社会とコミュニケーション —問題分析・問題解決編—

塚原 康博 教授

本ゼミナールでは、研究対象を限定せず、ゼミ生の関心に応じて社会におけるあらゆる問題を取り上げます。そして、取り上げた問題をみんなで調べ、議論して、その原因と対策を考えていきます。このような作業を通じて、ゼミ生が社会に対して関心をもってもらうこと、因果関係の理解に基づく論理的な思考能力を身につけてもらうことを目指しています。また、大学生生活でしかできない経験を積んでもらうために、日本公共政策学会主催の学生フォーラムや本学部ゼミナール協議会主催のゼミナール大会へ積極的に参加し、研究成果の公表を行っています。



PROFILE -----  
塚原 康博：専門は公共政策。公共政策の中でも、年金、医療、介護などの社会保障政策について実証分析を行っています。分析手法は主に経済学を用いています。また、経済学が前提とする人間像についてもその妥当性の検討を行っており、人間の心理的な側面を取り込むことによって、経済学により豊かな内容を加えることができるのではないかと考えています。

### 牛尾 奈緒美 ゼミナール

#### 業界・企業研究で日本経済の未来と なすべき仕事を見出そう

牛尾 奈緒美 教授

グローバル経済の進展により企業活動の範囲は飛躍的に広がり、ビジネスの変化のスピードも加速度的に増えています。当ゼミでは、経営学的視点を中核に据え、現代日本のさまざまな業界や企業行動について研究を行います。スマホやSNS、カフェなど普段何気なく利用しているモノやサービスは一体どんな企業が提供し、その企業が属する業界ではどんな競争が繰り広げられているのでしょうか？こうした身近な生活から問題意識を引き出し、将来自分がなすべき仕事や社会が目指すべき方向性についてみんなで考えていきます。歴代のOBやOGとの交流も盛んで、和気あいあいとした雰囲気は自慢です。



PROFILE -----  
牛尾 奈緒美：専門は経営学。少子高齢社会の中、女性や若者の活躍がより一層求められており、仕事と私生活の両立や働きがいのある組織について研究を行っています。私自身、フジテレビアナウンサーを結婚退職後、大学院、出産、育児との両立で大学教授のキャリアを築きました。ゼミではこの経験を生かすべく、勉学のみならず人生の先輩としてみなさんとの対話を重視しています。

### 根橋 玲子 ゼミナール

#### 異文化間コミュニケーション問題を 調査・分析する

根橋 玲子 教授

経済活動に伴う人の流れは国境を越え、ますますダイナミックになっています。日本も例外ではなく、多くの日本人が国外で、また多くの外国人が日本で働いています。彼らは単に働いているのではなく、そこにはそれぞれの生活と人生があります。また移動する人々やその家族はもちろん、受け入れる人々にも彼らの生活や人生があります。本ゼミでは、そうした人々の間に時としてできる「心の壁」を取り払い、より豊かな多文化共生社会を構築するには何をしていくべきかを課題としてさまざまな視点から取り組んでいます。



PROFILE -----  
根橋 玲子：日本人が文化背景の異なる人々と接触する際に起こす心理プロセスおよびコミュニケーション問題を大きなテーマに、海外で働く日本人と現地従業員、日本国内に住む外国人と周辺住民等を対象にフィールドワークを行っています。

### 波照間 永子 ゼミナール

#### 芸術コミュニケーション—社会に おけるアートの役割・問題を検討する—

波照間 永子 准教授

コミュニケーション不足による人間関係の希薄化が重要な課題といわれる今日、「芸術(アート)によるコミュニケーション」の意義がますます高まっています。そのようななかで、企業・自治体・学校・病院・NPO・アーティストらがコラボレートし、多様な企画が実施されています。本ゼミでは、アートがさまざまな場面(①教育[人材育成]、②医療[セラピー]、③町づくり、④国際交流)で、どのように機能しているかを検討します。現場で活躍している方々を招いて自身の体験を語ってもらい、ともに議論するだけでなく、積極的に現場を訪れ、具体的な体験をするなかで、現代社会におけるアートの課題を見出し、解決策を提案してもらいます。最終的にはゼミでチームを組んで、アートイベントを自主的に企画制作します。



PROFILE -----  
波照間 永子：専門は舞踊人類学・舞踊芸術学。ダンスや身体表現のもつ社会的文化的特性を研究しています。主なフィールドは沖縄をはじめとするアジア太平洋地域。近年は韓国民族の舞踊と沖縄舞踊の比較研究を行っています。ゼミ生と一緒にフィールドワークをするのを楽しみにしています。

# “情コミ”学部ならではの 多様な科目

## 情報リテラシー科目群

### プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ

#### 山崎 浩二 准教授

私たちはなんらかのソフトウェア=プログラムを通してコンピュータを利用します。したがって、プログラムがどのように動作し、どのように作成されるのかを理解することは、コンピュータに



対する理解を深めるために重要です。この科目では、プログラミング言語としてJava言語を用い、実習を通してプログラミングの基礎を学びます。



1年  
杉森 謙介  
千葉県私立  
志学館高等部卒業

この授業ではJavaというプログラミング言語を用いて、プログラミングについて学びます。先生が優しく、知識が無かった私でも理解できました。実習中心の授業で毎回進歩が実感できるとともに、実際に自分のプログラムが正常に動くのが嬉しいです。プログラミングは情報社会の現代においてきっと役に立つと思うのでおすすめしたい授業です。

## ことばとコミュニケーション科目群

### コミュニケーション基礎Ⅰ・Ⅱ

#### 鈴木 健 教授

コミュニケーションがうまいと評判の人は、どのような人か？コミュニケーション下手と思われる人は、なぜそう評価されるのか？コミュニケーション上手になるには、どうすればよいのか？「コミュニケーションの有能さ」(communicative competence)をキーワードに、説得、組織、異文化、メディア、ジェンダー等の分野ごとに、講義よりディスカッション中心の授業を展開します。最終週には、グループごとに恋愛や東日本大震災など、学生がもっとも興味のあるテーマに関して研究発表を行います。



と、講義よりディスカッション中心の授業を展開します。最終週には、グループごとに恋愛や東日本大震災など、学生がもっとも興味のあるテーマに関して研究発表を行います。



1年  
川本 大喜  
広島県私立  
広島城北高等学校卒業

グループワークを通じてコミュニケーション能力の基礎を養います。この授業の魅力はプレゼンテーションやディベートなどを通じて、自分とは異なる考えをもつ人々と協力して問題解決にあたる点です。その過程においてコミュニケーション能力だけでなく、今までの自分にはなかった新たな視点からものごとをとらえる能力を身につけることができます。

## 外国語科目群

### 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ

#### ハウス,ジェームス C. 教授

What is English Communication? If you say what you want to say clearly and effectively in English to another person and understand what another person says to you in English, that is English communication. It sounds simple, but it is not. To speak and to understand you need knowledge of the language and culture of English. Why study English Communication? English is the global language. Around two billion people all over the world speak it. If you want to communicate with people from other countries you need to learn how to communicate in English. In this class you can become an international communicator!



3年  
三浦 雄介  
東京都私立明治大学附属  
明治高等学校卒業

英語のスキルをインプットするのではなく、プレゼンやディスカッションなどでアウトプットすることが中心の授業です。理解できる英語と使える英語は別物です。普通の英語の授業に飽きて英語に興味があったり留学を目指したりしている人におすすめです。間違いを恐れなくてどんどん英語をしゃべってください。Don't think about mistake!

## クリエイション科目群

### 身体コミュニケーションA・B

#### 波照間 永子 准教授

沖縄では、旧盆になると、太鼓をもった若者が勇壮な舞「エイサー」を披露します。にぎやかな舞と太鼓の響きは、先祖の霊をもてなし送り出すという重要な役割をもっています。また、その芸能の魅力は沖縄系移民によって世界各地に伝えられ、移住先の文化と融合し「新エイサー (New Eisa)」と呼ばれる新たな太鼓パフォーマンスを創造しています。この授業では、エイサーの実習を通し、「身体」による「表現力」や「コミュニケーション能力」を身につけるとともに、受講生の感性をいかした作品づくり「創作法」を習得します。



マンスを創造しています。この授業では、エイサーの実習を通し、「身体」による「表現力」や「コミュニケーション能力」を身につけるとともに、受講生の感性をいかした作品づくり「創作法」を習得します。



2年  
永井 里奈  
長野県立  
松本県ヶ丘高等学校卒業

沖縄の伝統芸能のひとつである「エイサー」を通して「言葉」ではなく「身体」や「表現力」でのコミュニケーションを学んでいきます。グループごとに、自分達のアレンジを加えて「New Eisa」を作りあげていくと、机に向かっているだけでは学ぶことのできない、自ら身体を動かしてこそ学ぶことのできる新鮮な感覚を味わうことができます。

## 総合講座

### ジェンダーを考えるA・B

近年、男女共同参画社会実現のための取り組みがさまざまな分野で模索されています。また、セクシュアル・マイノリティ(同性愛者、両性愛者、性同一性障害等)の存在が可視化され、性のありようの多様性に関する議論が進みつつあります。こうした動きが起る背景や問題について理解するためには、社会的・文化的な性別を意味する「ジェンダー」の視点が不可欠です。この科目ではジェンダーに関わる領域で活動する第一線の研究者・専門家が、国内外のさまざまなジェンダー問題について考察します。また女子教育の分野で先駆的役割を果たし、とりわけ女性法律家を多く輩出してきた本学の歴史についても講義します。



4年  
梅澤 明日美  
東京都私立二松学舎  
大学附属高等学校卒業

授業内容によって担当講師が変わり、法律や医療、キャリアといった視点からジェンダーを学ぶことができます。この授業では、あらゆる角度からジェンダーを学ぶことができるので、授業ごとにジェンダーの新たな面を発見しながら考えを深めることができます。ジェンダーだけではなく社会学に興味のある人にもおすすめです。

## キャリアデザイン科目群

### インターンシップ

インターンシップとは、情報コミュニケーション学部の多様なカリキュラムと、社会のさまざまな組織(企業等の受け入れ機関)を結びつけるプログラムです。実践の場(インターンシップ受け入れ機関)で学問を高め、あなた自身の見方・考え方・社会人としての品格など多彩な能力を身につけることを期待しています。また、本学部にはキャリア関連の科目も編成。1年次には、働くことの意味や環境について知り、第一線で活躍している方々から、仕事や学生時代について話を聞くことができる「キャリアデザイン」を。2年次には、インターンシップ実習の意義を考え、ビジネスマナーを習得するための「インターンシップ入門」を。3年次には、受け入れ機関での実習を行う「インターンシップ」を置くなど、充実したプログラムを提供しています。



3年  
須田 千尋  
埼玉県立  
越谷北高等学校卒業

インターンシップとは実際に企業を訪問し、仕事をさせてもらう就業体験のことです。社会人の生の声を聞き仕事を肌で感じることで、学生と社会人との違いを実感することができます。この授業では事前にマナー研修やプレゼン講座があるため、安心してインターンシップに行くことができました。働く意義や楽しさを発見したい人におすすめの授業です。

# 情報コミュニケーション学部の 国際交流プログラム

情報コミュニケーション学部では、明治大学全体で実施されている国際交流とは別に、学部独自の短期学生交流プログラムを積極的に推進しています。  
以下で紹介するプログラムは本学部設置科目「国際交流」の一環として実施しています。

## タイ ラオス

### シーナカリンウィロート大学、モンクット王ラカバン工科大学、 ラオス国立大学との短期学生交流プログラムを実施

2010年度から「タイへの学生送り出しプログラム」および「本学への受け入れプログラム」を実施し、海外との学生交流を深めています。2014年度も、タイのシーナカリンウィロート大学、モンクット王ラカバン工科大学、ラオス国立大学との5度目となる短期学生交流プログラムを実施しました。



日本文化体験

### タイ・ラオスからの学生受け入れプログラム

このプログラムには、タイのシーナカリンウィロート大学人文学部、モンクット王ラカバン工科大学産業教育学部から各3名、ラオス国立大学文学部からも2名、合計8名の学生を2014年6月に約3週間受け入れ、「タイへの学生送り出しプログラム」に参加する本学部生20名が、実習補助を行いました。来日した学生は、本学部講義への参加を通じて、日本語や日本文化への理解を深め、山中セミナーハウス合宿に参加したり、企業訪問をしたりと、充実した時間を過ごしました。

### タイへの学生送り出しプログラム

このプログラムの目的は、異なる社会や文化背景をもつ同世代の学生と交流し、自国文化について認識を深め、異なる文化を尊重できるようになることです。さらに、海外、特にアジアで働くことについて積極的な態度で臨めるようになることを目的としています。参加学生は、タイ文化を事前に学んだ後にタイへ出発します。2014年度は、9月2日から12日までの11日間、シーナカリンウィロート大学にて比較文化ワークショップや授業に参加したほか、在タイ日本大使館、在タイ日系企業を訪問、そしてアユタヤ遺跡や王宮を見学しました。学生達は国籍が違いますが、勉強だけではわからないお互いの国の文化を話し合い、交流プログラムの目的を果たしました。短い期間のなかで、タイの文化や社会を自分の目で確かめることができる内容のプログラムとなりました。



国籍関係なく  
ディスカッション

日本文化  
を紹介

## アメリカ

### メンフィス大学への短期留学プログラムを実施

2012年度から、情報コミュニケーション学部はアメリカ・テネシー州メンフィス市にあるメンフィス大学への短期留学プログラムを開始しました。2014年度は、本学部生26名が参加し、事前講義として日本でアメリカ史のおおまかな流れ、重要人物や文化を勉強してから、2014年8月4日から17日までの約2週間、メンフィス大学にてアメリカの歴史と文化について集中的な英語講義に臨みました。講義以外でも国立公民権博物館やクリントン大統領図書館、ロサンゼルス全米日系博物館など歴史的な場所を訪問し、アメリカの歴史や文化を自分の目で確かめました。現地では、メンフィス大学の学生が本学部の学生の付き添いをするという「バディ」制度があり、同世代の学生と英語で交流する機会ともなりました。また、ロサンゼルスでは、ディズニーランドの訪問や市内視察を通して、アメリカ文化に触れ、プログラムを無事終了しました。



バディとの交流

## ベトナム

### ベトナム国家大学ハノイ外国語大学との短期学生交流プログラムを2014年度から実施

ベトナムはASAEN諸国の中で日本語検定受験者数をもっとも多い重要な親日国です。このプログラムではベトナムの民族の力を文化交流から学び、成長がもたらした変化と混乱を日本の高度成長の比較から考察し、日越経済交流をJICA等のプロジェクトの現場から学びます。2014年度から「ベトナムへの学生送り出しプログラム」および「本学への受け入れプログラム」を実施しています。



地下鉄博物館での乗車体験

### ベトナムからの学生受け入れプログラム

ベトナム短期学生交流受け入れプログラムは、本学部3つ目の短期海外交流プログラムで、ベトナム国家大学ハノイ外国語大学東洋言語文化学部日本語学科から学生9名を2014年7月に約2週間受け入れました。受け入れプログラム期間中は、9月の送り出しプログラムに参加する本学部生21名がサポーターとなり、受け入れ学生の日本語の学習や生活のサポート、大学内や都内の案内をしました。受け入れ学生は、本学部の授業、2泊3日の山中セミナーハウス合宿、地下鉄博物館等の都内視察などに参加し、明治大学や日本について理解を深めました。

### ベトナムへの学生送り出しプログラム

2014年9月2日から14日までの13日間、ベトナムにあるベトナム国家大学ハノイ外国語大学への短期送り出しプログラムを実施しました。このプログラムでは、ベトナムの現代社会と文化を理解するために有意義な団体や活動現場での実習・見学に加え、SEND (Student Exchange Nippon Discovery) プログラムを組み込んでいます。SENDプログラムでは、日本人学生が派遣先の大学および付属高等学校で日本語指導支援や日本文化の紹介を行います。

また、ハノイの女性博物館にある展示物の説明文を日越の学生が共同で邦訳を作成しました。博物館の説明文はベトナム語しかないものもあり、英文であってもベトナムの歴史や文化を知らない日本人学生には伝わりにくい説明であるためお互いのやりとりが自然と増え、共同作業は非常に良い交流学習の場となりました。



「ベトナムの歴史と文化」講義



座談会の様子

# ジェンダーセンターの活動

2004年に開設された情報コミュニケーション学部は、明治大学の女子教育を担ってきた戦前の専門部女子部、戦後の短期大学の伝統を引き継いで、当初よりジェンダー研究の推進を、学部の理念のひとつとして掲げてきました。社会や文化など多方面での男女の性差、ジェンダーやセクシュアリティにかかわる差別を解消し、ダイバーシティ(多様性)を尊重する公正な社会実現のための双方向コミュニケーションのあり方を追求することは、情報コミュニケーション学の重要な課題のひとつです。ジェンダー研究のより一層の深化と、明治大学、さらには広く社会における男女の共同参画を推進するために、2010年4月ジェンダーセンターが設置されました。



座談会の様子

### ジェンダーセンターの 活動例

- 特別講演会 「近代の再封建化：社会構造・ジェンダー・経済」「ジェンダーの脱植民地化を目指して」
- 上映会 資料映像「女性法曹界の道を拓いた人々」 / 映画「少女と夏の終わり」(上映会+座談会)
- 特別イベント 「『アナ雪』現象を読み解く！」

# ともに学ぶ教員たち

①主な担当科目 ②担当ゼミナール(3年次 問題分析ゼミナール) ③メッセージ

**石川 幹人 教授**  
人間の認知機能を生物進化の歴史に位置づけ、さまざまな心理現象の背景を探る。

- ① 科学リテラシー、不思議現象の心理学
- ② 私たちの身の回りにある奇妙なことを発見し探究しよう
- ③ 人間と社会、それらを取り巻く地球環境などと、大きなことを見とおす力を養ってください。

**施利平 教授**  
東アジアにおける家族・親族関係の変容と持続

- ① 家族社会学
- ② 恋愛・結婚・家族の社会学
- ③ 知力とともに気力、体力とコミュニケーション力を身につけよう!

**塚原 康博 教授**  
高齢化時代の公共政策

- ① 公共政策
- ② 現代社会と情報コミュニケーション - 問題分析・問題解決編 -
- ③ ひとつの事柄に対しても、多様な見方、感じ方のできるような人間になってください。

**細野 はるみ 教授**  
日本語・日本文学・日本語教育を通じて我々の文化的基盤を考える

- ① 日本文化論
- ② ことばと人間
- ③ 自分、および周囲との関係を尊重し、課題に対し真摯に柔軟に取り組んでほしい。

**牛尾 奈緒美 教授**  
企業に働く人々がジェンダーの枠を超えて活躍できる場・方策を考案

- ① ジェンダーマネジメント、経営学
- ② 就職活動に入る前に日本の企業や業界について研究をしてみよう
- ③ 幸せなキャリア、自分にあった生き方とは何か、この4年間でじっくり考えてみませんか。

**鈴木 健 教授**  
レトリック批評、説得コミュニケーション論、コミュニケーション教育

- ① パブリック・スピーキング
- ② 公的な説得の技法(The art of Public Persuasion)としてのレトリック
- ③ ポジティブ・シンキングで、前向きの人生を目指して行きましょう。

**富樫 光隆 教授**  
社会資本(道徳、儀、公圏など)ストックと「豊かさ」の国際比較

- ① マクロ経済学、データ解析論
- ② 実証的な方法による問題分析
- ③ PCを使ったデータ解析。難しいかもしれませんが、楽しいですよ。データ解析の達人になりたいでしょう。

**山口 生史 教授**  
組織がうまく機能するためのコミュニケーション学

- ① 組織コミュニケーション
- ② 組織コミュニケーション研究
- ③ みなさんとともに組織の問題をコミュニケーションの視点から考えていきたいと思います。

**江下 雅之 教授**  
技術と産業・社会の相互作用的関係の研究

- ① 情報社会学
- ② メディアとネットワークの相互的な影響に関する研究
- ③ 実用的な知識は社会人になればイヤでも習得するもの。大学生の時代こそ役に立たないことに熱中しましょう。

**須田 努 教授**  
人間社会における暴力の問題・日本近世民衆の朝鮮・国民国家の形成と在来文化の変容など

- ① 社会文化史
- ② 異文化コミュニケーション史・社会文化史の研究
- ③ 歴史的視座、「情コミ流儀」の歴史学を学び、タフな主体的知を形成していこう。

**友野 典男 教授**  
経済行動に及ぼす心理的・社会的・生物的要因の理論的・実証的研究

- ① 不確実性下の人間行動
- ② 行動経済学-経済・情報・心理の複合領域の研究
- ③ 常識や思い込みにとらわれずに多様なものの見方を身につけ、自分の進むべき道を見出してください。

**石川 邦芳 准教授**  
談話とコミュニケーションおよび意味伝達モデルによる情報構造論

- ① 談話コミュニケーション
- ② 海外大学院での研究を土台に、検証性の高い分析とそれに裏打ちされた教育指導を目指します。

**金子 邦彦 教授**  
貨幣の理論的・実証的研究

- ① 金融システム論
- ② わが国の金融システム
- ③ 自ら学び、悩み、問題解決の努力をすることで、「心友」を得ることを望みます。

**関口 裕昭 教授**  
ドイツ抒情詩、日独比較文化論

- ① 比較文学・比較文化、ドイツ語
- ② 日独比較文化研究
- ③ 異質なものと出会いを通して、自分の世界を広げ、深めていきましょう。

**中村 義幸 教授**  
行政法政策学、人権政策学の研究

- ① 行政法と行政過程
- ② メディアと行政の判例分析
- ③ 将来の重要な政治・行政課題の解決を担える人材になることを期待します。

**今村 哲也 准教授**  
情報社会における知的財産法上の政策課題の検証

- ① 知的財産法、財産と法
- ② 情報社会における知的財産の役割
- ③ 情報社会を生き抜くためには、知的財産法に関する知識と理解が必要です。

**古屋野 素材 教授**  
情報社会における教育の問題。日欧高等教育史の比較研究

- ① 情報社会と教育
- ② 言語文化と情報文化の問題群～民族・国境を超える言語文化の可能性と壁～
- ③ 人を信じ、自分を励まし、希望を大切に、夢を追いかけよう。

**大黒 岳彦 教授**  
「メディア」と「情報」の思想・哲学的研究

- ① 哲学、メディア論
- ② 現代思想入門(思想的バックボーン形成のために)
- ③ 自分だけの「問題」を見つけ、それにとことんこだわることを。

**根橋 玲子 教授**  
主に日本人の異文化接触における対人コミュニケーション行動

- ① 異文化理解・適応
- ② 異文化間コミュニケーション問題を調査・分析する
- ③ 人間のコミュニケーション行動を客観的に理解することで視野を広げましょう。

**岩淵 輝 准教授**  
生命論(生命とは何か)。生命思想史。グスタフ・フェヒナーの精神物理学

- ① 生命思想史
- ② 生命の探究
- ③ 好きなこと、本当に大事だと思うことを、追求しつづけてください。

**ハウス、ジェームスC. 教授**  
英語社会とメディア研究

- ① 英語音声学、英語コミュニケーション
- ② Communication and Society: English for the Media
- ③ Hunger to learn. Ask questions and search for answers. Never give up. Take every opportunity the university offers. "Seize the day".

**小田 光康 准教授**  
マスメディアと高等教育の比較制度分析、ジャーナリズム・マスコミュニケーション教育、メディアクリティック

- ① コミュニケーション、メディア言語論
- ② 「メディア表現」のしきたりと作法
- ③ メディアを通じて情報発信するメディアリテラシーが求められる現在、メディアの現在進行形を一緒に学びましょう。

**武田 政明 准教授**  
男女、パートナー、夫婦、親子、家族等の間に生ずる法的諸問題

- ① 市民社会と法、家族と法
- ② 男女、夫婦、親子、親族、高齢者等に関する生活上の諸問題に対する解決策の提案
- ③ 問題の原因を根本から考え、積極的に解決策を提言しようとする姿勢を大切にしています。

**山崎 浩二 准教授**  
コンピュータを用いたさまざまなシミュレーション

- ① 情報科学、プログラミング実習
- ② ソフトウェア開発とアルゴリズム
- ③ 新しい学部を歴史をみながら作り上げていきたいと思います。

**南後 由和 専任講師**  
都市とメディア、建築と社会に関する理論的・実践的研究

- ① 都市情報論
- ② 東京から〇〇を研究する
- ③ 理論と実践をつなぎ、異分野を越境していく貪欲さに期待しています。

**川島 高峰 准教授**  
非欧米圏における近代化・民主化の比較

- ① 政治学、政治とメディア
- ② 国家論：現代日本の政治・社会を映像で表現する
- ③ 地球規模で考え、現場で行動できる人を目指そう。Think Globally, Do Act Locally. Let's Get Glocally!

**田中 洋美 准教授**  
社会変動論、グローバル社会学、ジェンダー社会学

- ① ジェンダー論
- ② 差異と境界の社会学
- ③ 社会に出る前に社会についてじっくり楽しく学びましょう。

**和田 悟 准教授**  
法分野を中心とした情報技術応用

- ① 情報倫理
- ② 情報化の進展と情報教育のあり方
- ③ いそいそ、じっくりゆきましょう。

**宮田 泰 専任講師**  
現代社会における私的紛争の解決をめぐる制度と手続きの考察

- ① 紛争解決システム論
- ② 紛争解決システム論
- ③ 情報コミュニケーション学部でともに学びましょう。

**清原 聖子 准教授**  
現代アメリカにおける通信・放送規制改革メカニズムの研究

- ① 情報政策論
- ② 情報通信政策の国際比較研究
- ③ 政治学を基礎に情報政策論を学んで、情報社会の将来を見通す見識を養いましょう。

**波照間 永子 准教授**  
身体技法および舞踊技法の研究、無形文化財のアーカイブ化(記録・保存)、現代芸術の創造

- ① 身体表現論
- ② 芸術コミュニケーション研究～社会におけるアートの役割・問題を検討する～
- ③ さまざまな体験を重ね、試行錯誤しながら、あなた自身の「ぶれない軸」(強み)を見つけましょう。

**高橋 華生子 専任講師**  
国際開発、都市・地域計画、NGO研究

- ① 国際協働論
- ② 国際開発の理論と実践～協働のあり方を考える～
- ③ ネットワークをいかにして、経験からの学びと遊びと一緒に探っていきましょう。

**脇本 竜太郎 専任講師**  
防衛性の社会心理学。特に存在脅威管理理論、公正さの判断。

- ① 社会心理学 II
- ② 公正さの追求に関わる問題の社会心理学的分析
- ③ 心と社会の相互作用という視点から、人間を多面的に理解する姿勢とスキルを身につけましょう。

**熊田 聖 准教授**  
ビジネスにおける交渉での満足できる合意の要因は何か

- ① 意思決定論
- ② 意見の対立している分野を取り上げ、調査し、自分の考えを明確にし、それを他人に説明できるようにする
- ③ あなたのの中の理系と文系の知識を統合すると、社会の問題をじっくり考えられるようになります。

**蛭川 立 准教授**  
心身問題への人類学のアプローチ。儀礼とコスモロジーの研究

- ① 人類学、身体と意識
- ② 人類学と意識研究
- ③ 世界には不思議がいっぱいです。よく観察し、よく考察しましょう。

**竹中 克久 専任講師**  
組織社会学、組織における文化とシンボルの研究

- ① 組織論、組織と情報
- ② 組織社会学-現代社会を読み解く
- ③ 大胆な発想から精緻な論理を組み立てる楽しさを伝えていきたいと考えています。

**森 達也 特任教授**  
特に映像リテラシーの観点から、メディアやジャーナリズムのありかたや意味、そして現状の問題点を考察する。

- ① メディア・リテラシー、ジャーナリズム論
- ② メディア・リテラシー
- ③ 水や空気と同じようにメディアは不可欠なものである。ならば正しい使い方を知らないと。

**高馬 京子 准教授**  
日仏メディアにおけるファッションと女性の相互表象の史的比較考察

- ① 地域文化論
- ② トランスナショナルコミュニケーション時代の「文化」形成: 越境するkawaii文化表象を事例に
- ③ 自分の夢に近づけるため、大学でいろいろな経験を積んで視野を広げ、好奇心、探求心、バイタリティーを磨いていきましょう。

**堀口 悦子 准教授**  
「ジェンダー」視点でコミュニケーションから法制度までを分析

- ① ジェンダーと法
- ② ジェンダー間および親密な関係性のなかの暴力、とくにドメスティック・バイオレンス(DV)の認識と予防、および女性と子どもに対する暴力とその回復
- ③ 「ジェンダー」を知っている人も知らない人も、一緒に学び、考えてみましょう。

**内藤 まりこ 専任講師**  
日本文学・文化研究、東アジア地域を対象とする比較文学研究

- ① 日本語表現
- ② 言語表現を読み解く技法: 理論と実践
- ③ 文学や映画を題材に、世の中を少し異なる角度から眺める方法を身につけるお手伝いをします。

**宮川 渉 特任講師**  
作曲と音楽学

- ① 音楽論、デジタルアート
- ② 既存概念にとらわれず、失敗を恐れず、積極的に色々なことに興味をもって取り組んでください。

**鈴木 健人 准教授**  
国際安全保障、冷戦史、構成主義の国際政治理論の研究

- ① 国際関係論
- ② 構成主義の国際政治理論を援用しながら、国際的な戦略環境について情報とコミュニケーションの視点から考察していく。また、国際関係全般についても広く研究の対象とする。
- ③ 厳しい現実を冷静に分析し前向きに問題解決を考える、たくまさを身につけよう。

**宮本 真也 准教授**  
コミュニケーションと相互承認の社会学

- ① 社会学、コミュニケーション思想史
- ② 社会学と現代社会
- ③ 「私」と社会について、考えたり、語り合うしみを覚えてください。

**中里 裕美 専任講師**  
地域通貨研究、経済社会学、社会ネットワーク論

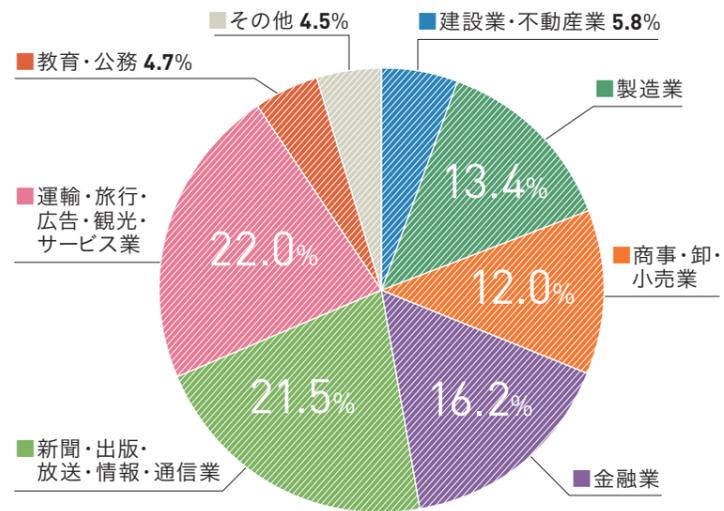
- ① ネットワーク社会学
- ② 社会ネットワーク<つながり>の研究
- ③ 大学生活を通して、自分が夢中になれる何かを見つけよう。

**小谷 真理 客員教授**  
フェミニズム理論とクイア理論によるカルチュラル・スタディーズ

- ① メディア言語論
- ② フェミニズム理論とクイア理論によるカルチュラル・スタディーズ
- ③ すてきな表現者になりましょう。

# 情報コミュニケーション学部の就職実績

業種別 就職状況 (2014年度卒業生)



## 主な就職先企業・団体名

<b>建設・不動産業</b>	・日揮株式会社	・東急不動産株式会社
	・積水化学工業株式会社	・大東建託株式会社
	・オリックス株式会社	・野村不動産パートナーズ株式会社
<b>製造業</b>	・パナソニック株式会社	・富士通株式会社
	・花王株式会社	・大王製紙株式会社
	・凸版印刷株式会社	・コニカミノルタ株式会社
	・カゴメ株式会社	・キユーピー株式会社
<b>商事・卸・小売業</b>	・住友林業株式会社	・アマゾンジャパン株式会社
	・リコージャパン株式会社	・株式会社そごう・西武
	・株式会社JTB商事	
<b>金融業</b>	・株式会社みずほフィナンシャルグループ	・損害保険ジャパン日本興亜株式会社
	・株式会社三菱東京UFJ銀行	・日本生命保険相互会社
	・株式会社三井住友銀行	・第一生命保険株式会社
	・東京海上日動火災保険株式会社	・SMBC日興証券株式会社
<b>新聞・出版・放送・情報・通信業</b>	・株式会社テレビ朝日ホールディングス	・株式会社日刊スポーツ新聞社
	・株式会社読売新聞	・株式会社中日新聞社
	・東映株式会社	・株式会社ポニーキャニオン
	・NTT東日本	・KDDI株式会社
<b>運輸・旅行・広告・観光・サービス業</b>	・株式会社サイバーエージェント	・JTBグループ
	・株式会社博報堂DY	・全日本空輸株式会社
	・メディアパートナーズ	・日本航空株式会社
	・エイベックスグループ	・東日本旅客鉄道株式会社
	・ホールディングス株式会社	・日本郵政グループ
<b>教育・公務</b>	・国家公務員	・太田市役所
	・千葉県庁	・鹿ヶ嶋市役所
	・さいたま市役所	・府中市役所

# 情報コミュニケーション学部で取得できる資格

## 教員免許状

情報コミュニケーション学部では、指定された科目を修得すれば、次の教員免許状を取得することができます。

中学校教諭一種免許状	社会、外国語(英語)
高等学校教諭一種免許状	公民、外国語(英語)、情報

教員免許状を取得するためには、次のような科目群の単位修得が必要です。

- 学士(情報コミュニケーション学)の取得に必要な単位(つまり学部を卒業できる条件を満たすこと)
- 免許状に応じた指定科目
- 「教職に関する科目」

※詳しくは『資格課程案内』をご覧ください

## 学芸員、社会教育主事、司書、司書教諭

指定科目の修得により卒業と同時に取得できます。

## CCNA (シスコ技術者認定資格)

CCNA (Cisco Certified Network Associate) とは、ネットワーク関連製品の最大手であるシスコシステムズ社が認定する資格で、中小規模のネットワークの構築・運営・管理が可能な能力を身につけていることを証明するものです。CCNA資格の取得のための授業としては「ネットワーク技術Ⅰ～Ⅳ」が用意されています。動画や音声を活用したWeb教材が用意されていて自分のペースで学習を進めることができるようになっていきますし、授業ではネットワーク機器を使って実際にネットワークを構築し実際的な問題に対処するなどの実践的な実習も取り入れられています。



## 社会調査士

この資格は社会調査をすることのできる知識と技能を有していることを証明する資格です。社会調査には、マーケティング調査、コミュニティ・企業・学校などにおける意識調査などさまざまなものがありますが、社会科学的手法に従い多様な社会現象を理解し、諸現象の因果関係などを明確に提示するのに有効な手段です。社会調査協会に認定された科目(全部で7種類、うち一部選択)を修得して卒業すると、試験を受けることなく社会調査士の資格を得る条件を満たします。

# 情報コミュニケーション学部生の1日

## ひとり暮らしの場合



大好きな読書や海外旅行で自分の時間を有効活用

3年  
鈴木 萌  
神奈川県立厚木高等学校卒業

ひとり暮らしを選んだ理由と、実際の感想を教えてください。

最初は自宅通学だったのですが、2時間程かかっていたので1年生の9月頃からひとり暮らしを始めました。大学が近くなり、とても楽になりました。また、新宿など都心へのアクセスも便利になりました。でも、親と離れてからは、わからないことがあってもすぐに聞けなくなったり、ちょっとした用事も気軽に頼めなくなったのが大変でした。それと最初の頃は、やっぱり家事に振り回されました。

大学では、普段どのように過ごしていますか？

図書館で本を借りたり、課題にじっくり取り組んだりしています。私は読書が好きなので、小説や新書など色々なジャンルの本を読むようにしています。また、講義のない日は集中してアルバイトをしています。無駄遣いせずに、海外旅行のためにコツコツ貯金しているんです。自分の時間を上手に使えるよう、日頃から心がけていますね。

## ある日のスケジュール

- 7:00 起床  
ニュースを見ながら朝ご飯
- 8:50 登校  
この時間はラッシュが大変!
- 9:00 1時限  
「人類学」  
信仰について勉強しました
- 10:40 2時限  
「メディア・リテラシー」  
戦争ドキュメンタリーを見て、考えさせられました
- 12:10 昼食  
友達とおしゃべりしながら息抜き
- 14:00 アルバイト  
会社での事務作業。パソコンをたくさん使います
- 19:00 帰宅  
夕食はヘルシーに
- 20:00  
お風呂や次の日の準備
- 22:30 読書  
ベッドでのんびり読書
- 24:00 就寝



## 1カ月の生活費(収支)

収入	
仕送り	100,000円
アルバイト	45,000円
合計	145,000円
支出	
家賃	50,000円
食費	20,000円
光熱費	10,000円
通信費	5,000円
交際費	10,000円
生活費	10,000円
貯金	30,000円
その他	10,000円
合計	145,000円

## 自宅から通学の場合



互いに助け合う仲間とともに勉強もプライベートも充実の毎日!!

2年  
酒井 純平  
神奈川県立相模原高等学校卒業

自宅から通うメリット・デメリットを教えてください。

毎日家族と顔を合わせられることと、衣食住に不自由なく健康的に生活できることが何よりのメリットだと思います。その代わり、通学時間が2時間半と長いので、早く家を出なくてはならなかったり、電車内や乗り換え等で無駄な時間がどうしてもできてしまったりすることがあります。

大学では、普段どのように過ごしていますか？

普段の生活は大学とアルバイトの二本柱です。クラスの友達と授業を受け、お互いに助け合いながら勉強しています。空き時間は図書館で課題やテスト勉強、読書をして過ごします。学校で集中できるときに勉強するよう心がけています。国内外のさまざまな土地を旅してまわるのが目標のひとつなので、週5～6日のアルバイトで得た収入は無駄遣いをせず貯金に回します。でも、たまには友達と買い物や食事に出掛けて息抜きもしています。暇な日はほとんどなく、毎日が充実していてとても楽しいです。

## ある日のスケジュール

- 6:00 起床  
情報番組を見ながら朝ご飯
- 7:00 登校  
毎朝通勤ラッシュ!!
- 9:00 1時限  
「中国語Ⅳ」  
語学だけでなく中国についても学びます
- 10:40 2時限  
「社会学B」  
現代社会を深く考察しました
- 12:10 昼食  
クラスの友達と食堂で雑談
- 13:00 3時限  
「Critical Reading(上級)」  
ジョーンズ先生のユーモアある授業が楽しい
- 14:40 4時限  
「社会調査法B」  
自らアンケート調査を実施し社会調査を経験
- 16:20 5時限  
「組織論」  
竹中先生独特の語り口で組織について学びました
- 19:00 アルバイト  
美味しい紅茶をつくり、笑顔で接客に励みます!
- 23:00 帰宅  
テレビを見ながら夕食
- 1:00 お風呂&就寝



## 1カ月の生活費(収支)

収入	
お小遣い	0円
アルバイト	8,000円
合計	8,000円
支出	
通信費	5000円
交際費	20,000円
生活費	10,000円
貯金	30,000～40,000円
その他	15,000円
合計	80,000～90,000円

# 各分野で活躍している卒業生たち

## 放送局



日本放送協会 (NHK) 勤務  
濱野 慎司さん

東京都立国分寺高等学校卒業  
2008年4月、日本放送協会入社。  
エンターテインメント番組部 ディレクター。

### 偶然、受けた授業が、今につながっている

僕は、NHKで放送する歌、バラエティ番組を制作する部署で働いています。年末には『紅白歌合戦』にも携わっています。現在はコント番組を制作する班に所属しています。この仕事の魅力は、ベタですが、とにかく自分のしたことでも人に喜んでもらえる“可能性”がたくさんあることです。番組を見て、誰かが喜んでくれた時の感覚は、「寝れない」や「休めない」といった、すべての不満を吹き飛ばします。

大学時代の僕といえば……明確な目標もなく、読書と麻雀を繰り返す日々。ダメダメな学生でしたが、

ある日、情コミで偶然受けたメディア研究の授業で、マスコミに興味をもち始めました。情コミの魅力といえば、まさにそこで、さまざまなものごとに触れられる機会がたくさん用意されています。僕も、大学時代、哲学から心理学、経営学まで色々な授業を受けました。その中で「マスコミ」が心に引っかかり、今につながっています。さあ、あなたも、レッツ情コミ！楽しい学生生活が送れると思うので、ぜひいらしてください。

## メーカー



日本ハム株式会社 勤務  
鴨井 健太郎さん

東京都私立攻玉社高等学校卒業  
2013年4月、日本ハム株式会社入社。  
デリ商品事業部に配属。

### 自分がどうなりたいか、どうしたいかを常に「自責」をもって考えて

「私は従業員99人、年商100億円の会社で管理職として働いています。業務は製造管理から労務・財務・対外折衝・人員配置まで多岐にわたります。扱っている商品は、石釜工房シリーズ(ピザ)やSucre et Sucreシリーズ(パンケーキ)です。」と、このように、私は普段から「どんな仕事をしていますか?」という問いに、所属している課をひとつの企業にたとえて「1年目ながら、管理職として“年商100億の会社を動かしている”という実感とやりがいをもって働いている」と答えています。社会人はみなさんが思う以上

に自由です。だからこそ、行動の結果には必ず責任が伴います。そのため情報コミュニケーション学部の中で、将来自分がどうなりたいか、どうしたいかを常に「自責」をもって考えてほしいと思います。学生のうちから何をやるにしても「自責」という考えをもって、社会に出てからその人の価値を高めます。

情報コミュニケーション学部では身になる授業や、魅力的な教員の方々がいらっしゃいます。その中であなたの「個」を磨いて巣立って行ってください。

## 出版社



株式会社 集英社勤務  
金岡 聖樹さん

静岡県立掛川西高等学校卒業  
2013年4月、株式会社集英社に入社。  
現在は第1編集部りぼん編集部。

### 幅広い分野から多様な切り口を見つけられた

今日は漫画雑誌の発売日で、小学生の女の子が、学校帰りに急いで書店に向かってます。すぐにビニールを破いて、目当ての連載を探して……、みなさんもいつか、そんな子供だったのではないのでしょうか。その子が心待ちにしているのが、自分の手掛けた漫画や記事だったら……最高だと思いませんか！僕は今そんな仕事をしています。

仕事で大切にしているのは、前のめりな姿勢と自分なりの切り口。受身や批評精神は、読者の特権です。編集者は叩かれても、掛けそうでも、「おもしろ

い！」を探して届ける仕事。情コミは、哲学、経済、演劇……宇宙や超能力まで、「おもしろさ」を見つけるための、多様な切り口を与えてくれました。

この会社を志望したのは偶然です。ある日、自分の読んできた雑誌が集英社のものばかりだと気づいたことがキッカケでした。「ふと振り返る」そんな機会を与えてくれるのが情コミなのかもしれません。自由な情コミは、幅広い興味関心をもつ学生にピッタリの、贅沢な学部だと思います。興味をもったのなら、ぜひ飛び込んでみてください。

## 金融



株式会社みずほ銀行 勤務  
加藤 成美さん

東京都立九段高等学校卒業  
2013年4月、株式会社みずほ銀行入行。  
渉外一課に配属。

### 社会人になったときに糧となるような、たくさんの経験を

私は現在、法人営業担当として担当先のニーズにあった金融サービスを提供しています。主な職務は担当先への融資ですが、融資実行に至るまでの企業の実態把握、財務審査、稟議書作成等も大事な仕事です。

経営に必要な「お金」を扱うため、細かさや堅実さが求められます。しかしそれ以上に重要なのは、経営者の方々と信頼関係を構築し、どうしたら喜んでいただけるかを考えることです。自分で提案したことが実際にお客様の助けになれたときはやりがいを感じます。また、意欲次第で自らキャリア形成ができることも魅力のひとつです。情コミには自分が

学びたいものを学びただけ学べる場が用意されています。たとえ今それが見つかっていなくても、じっくり時間をかけて探してみてください。私も入学当初は将来やりたいことがわかりませんでした。多様な講義やゼミを通して何に興味があるのかを掘り下げていきました。また、在学中の海外留学経験が現在の「自分の経験を活かして日本企業の海外進出に貢献したい」という思いにつながっています。

社会人になったときに糧となるような経験を、幅広い知識を身につけ、自分の可能性を広げてください。

## 企画・制作



株式会社アニプレックス 勤務  
新宅 洋平さん

神奈川県立湘南高等学校卒業  
2010年4月、株式会社アニプレックス入社。  
企画制作部 プロデューサー。

### 世間のニーズをキャッチする“アンテナ”を組み立てられた

アニメ作品の企画・制作、プロデューサー(アニメ『ピンポン』等)の仕事を担当しています。

学生時代から映画や小説、音楽、マンガが好きでした。就職するにあたって、それらを複合的に組み合わせることのできる映像、またグローバルに勝負できる可能性をもつと感じたアニメーションの製作をやりたいと思っていたので、現在の会社を志望しました。

プロデューサーは自分が仕掛けたプロジェクトを多くの人に見てもらおうと、ヒット、また大ヒットを目指さなければいけません。ヒットをつくるために

は、世間でどのような事が起こって、人々が何を感じているのかをキャッチするアンテナが必要になってきます。さまざまな角度から世界を見る術を教えてください。情報コミュニケーション学部の4年間で、自分なりのアンテナの基礎をつくれたと思っています。

情コミは、世の中に気になることがたくさんあるという好奇心旺盛な人には、多種多様な課題やアドバイスを提供してくれます。多感な大学4年間で有意義に使って、一生熱中できるものを見つけると楽しいと思います。

## 公務員



神奈川県立秦野曾屋高等学校 勤務  
櫻井 裕美さん

神奈川県立平塚江南高等学校卒業  
2009年4月より神奈川県立秦野曾屋高等学校 英語科教諭。

### 大学4年間のすべてが今の私の引き出しとなっている

私は現在、高等学校の英語科の教員として働いています。生徒たちにとって人生の大きな分岐点である高校時代。担任として相談にのったり、一緒に悩みながら過ごすことは大変なこともあります。成長する姿を見ることに大きな喜びを感じます。わかりやすい授業をすることだけでなく、授業を通してさまざまなことを生徒に伝えることも、教師の大切な役割です。自分自身の言葉や考えが生徒の力になり、背中を押すことができます。

そのためには、たくさんの引き出しが必要です。私はこの学部で、たくさんの引き出しを作ることができました。

教育の知識に限らず、さまざまなジャンルの授業やゼミで学んだこと、外国文化に触れたこと、失敗や悩みなど、大学4年間のすべてが私の引き出しとなっています。英語教師になるという夢を叶えるうえで、“教育学部卒業ではない”ことが私の一番の不安でした。しかし、教師になった今、“情報コミュニケーション学部を卒業した”ことが一番の強みになっています。情報コミュニケーション学部には他の学部ではできない多種多様な経験ができる環境があります。失敗を恐れずにいろいろなことに挑戦し、自分の引き出しを増やしてください。

# 入試情報

## Web出願 スタート!!



明治大学は、2016年度入学試験から一般入学試験  
(一般選抜・全学部統一・大学入試センター試験利用入学試験)  
において、すべてWeb出願になります。

※ 詳細は、一般入学試験要項(明治大学ホームページにて11月上旬公開予定)をご確認ください。  
※ 特別入学試験・推薦入学試験では、Web出願を行いません。

### ■一般選抜入学試験(A方式)

学科(募集人数)	出願期間	入学試験日	合格発表日	入学手続締切日
310名	1月4日(月)～1月28日(木) ※ 締切日消印有効	2月8日(月)	2月15日(月)	3月3日(木) ※ 締切日消印有効

入学試験時間割・配点			試験科目
1時限	2時限	3時限	
10:00～11:00(60分)	12:00～13:00(60分)	14:20～15:20(60分)	外国語 …………… 英語(コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ) 国語 …………… 国語総合(漢文を除く) 地理歴史・公民・数学 …………… 世界史B、日本史B、政治・経済、数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」)から1科目選択
外国語(配点100点)	国語(配点100点)	地理歴史・公民・数学(配点100点)	

### ■一般選抜入学試験(B方式)

学科(募集人数)	出願期間	入学試験日	合格発表日	入学手続締切日
20名	1月4日(月)～1月28日(木) ※ 締切日消印有効	2月8日(月)	2月15日(月)	3月3日(木) ※ 締切日消印有効

入学試験時間割・配点			試験科目
1時限	2時限	3時限	
10:00～11:00(60分)	12:00～13:00(60分)	14:20～15:20(60分)	外国語 …………… 英語(コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ) 情報総合 …………… 社会と情報・情報の科学に共通する内容 数学 …………… 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」
外国語(配点100点)	情報総合(配点100点)	数学(配点100点)	

### ■全学部統一入学試験

学科(募集人数)	出願期間	入学試験日	合格発表日	入学手続締切日	試験会場
20名	1月4日(月)～1月21日(木) ※ 締切日消印有効	2月5日(金)	2月15日(月)	3月3日(木) ※ 締切日消印有効	東京(駿河台・和泉キャンパス)、 神奈川(生田キャンパス)、札幌、仙台、 名古屋、大阪、広島、福岡

利用する「全学部統一入学試験」の教科・科目・配点等			
教科	時限	科目	配点
外国語	2時限 11:20～12:20(60分)	英語(コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ)、ドイツ語、フランス語から1科目選択	150点 ※
●下記の5教科9科目のうち2科目を選択し、受験する。3科目を受験した場合には、高得点の科目を利用する。			
国語	1時限 9:30～10:30(60分)	国語総合(漢文を除く)	200点(100点×2)
地理歴史・公民・理科	3時限 13:40～14:40(60分)	世界史B、日本史B、地理B、政治・経済、物理(物理基礎・物理)、化学(化学基礎・化学)、生物(生物基礎・生物)から1科目選択	
数学	4時限 15:30～16:30(60分)	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」)	
合計(3科目)			350点

※ 情報コミュニケーション学部の「外国語」は他学部と同一問題[60分(100点満点)]を使用し、配点を150点満点に換算する。

### ■大学入試センター試験利用入学試験(3科目方式)

入学試験日は、「平成28年度大学入試センター試験受験案内」を参照してください。

学科(募集人数)	出願期間	試験日(大学入試センター試験)	合格発表日	入学手続締切日
30名	1月4日(月)～1月15日(金) ※ 締切日消印有効	1月16日(土)・1月17日(日)	2月15日(月)	3月3日(木) ※ 締切日消印有効

利用する「大学入試センター試験」の教科・科目・配点等		
教科	科目	配点
外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』、『韓国語』から1科目 『英語』は、筆記試験の大学入試センター試験の配点200点、またはリスニングテストを含む大学入試センター試験の配点250点を200点に換算し、いずれか高得点の成績を合否判定に利用する。	200点
●下記の2教科3科目のうち1科目を選択。2科目以上受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。		
国語	『国語』	200点
数学	『数学Ⅰ・数学A』、『数学Ⅱ・数学B』(注)大学入試センター試験の配点100点を200点に換算する。	
●下記の3教科14科目のうち1科目を選択。2科目以上受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。(200点に換算)		
地理歴史・公民	『世界史B』、『日本史B』、『地理B』、『現代社会』、『倫理』、『政治・経済』 『地理歴史』、『公民』を合わせて2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。 第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。	200点
理科	『物理基礎』、『化学基礎』、『生物基礎』、『地学基礎』、『物理』、『化学』、『生物』、『地学』 【理科②】において2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。(注)【理科①】を利用する場合は、【理科①】のうちから2科目を選択し、この2科目をもって1科目とみなす。	
合計(3科目)		600点

※【理科①】…『物理基礎』『化学基礎』『生物基礎』『地学基礎』を指します。※【理科②】…『物理』『化学』『生物』『地学』を指します。

### ■大学入試センター試験利用入学試験(6科目方式)

入学試験日は、「平成28年度大学入試センター試験受験案内」を参照してください。

学科(募集人数)	出願期間	試験日(大学入試センター試験)	合格発表日	入学手続締切日
10名	1月4日(月)～1月15日(金) ※ 締切日消印有効	1月16日(土)・1月17日(日)	2月15日(月)	3月3日(木) ※ 締切日消印有効

利用する「大学入試センター試験」の教科・科目・配点等		
教科	科目	配点
国語	『国語』	200点
外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』、『韓国語』から1科目 『英語』は、筆記試験の大学入試センター試験の配点200点、またはリスニングテストを含む大学入試センター試験の配点250点を200点に換算し、いずれか高得点の成績を合否判定に利用する。	200点
数学	『数学Ⅰ・数学A』 『数学Ⅱ・数学B』、『工業数理基礎』、『簿記・会計』、『情報関係基礎』から1科目 『工業数理基礎』、『簿記・会計』、『情報関係基礎』は、高等学校において、これらの科目を履修した者および文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程を修了した者(見込者を含む)に限る。	100点
●下記の3教科14科目のうち2科目を選択。3科目以上を受験した場合には、高得点の2科目の成績を合否判定に利用する。 同一教科内について、2科目の使用も可。『地理歴史』、『公民』及び『理科』は、第1解答科目・第2解答科目に係わらず合否判定対象とする。(各科目100点)		
地理歴史	『世界史B』、『日本史B』、『地理B』	200点 (100点×2)
公民	『現代社会』、『倫理』、『政治・経済』	
理科	『物理基礎』、『化学基礎』、『生物基礎』、『地学基礎』、『物理』、『化学』、『生物』、『地学』 (注)【理科①】を利用する場合には、【理科①】のうちから2科目を選択し、この2科目をもって1科目とみなす。	
合計(6科目)		800点

※【理科①】…『物理基礎』『化学基礎』『生物基礎』『地学基礎』を指します。 ※【理科②】…『物理』『化学』『生物』『地学』を指します。  
※新教育課程履修者[①高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)に平成25年4月に入学し、平成28年3月卒業見込みの者 ②中等教育学校の後期課程に平成25年4月に進級し、平成28年3月卒業見込みの者]は、『工業数理基礎』を利用できません。詳細は、「平成28年度大学入試センター試験受験案内」を参照してください。

### ■特別入学試験

● 付属校推薦入試(55名)	● スポーツ特別入試(5名)	● 外国人留学生入試(若干名)	詳細は、情報コミュニケーション学部事務室 (TEL.03-3296-4262～4)までお問い合わせ下さい。
----------------	----------------	-----------------	----------------------------------------------------------

# OPEN CAMPUS

オープンキャンパス

実際にキャンパスへ来て、情報コミュニケーション学部をもっとくわしく知ろう！

オープンキャンパスでキャンパス見学ツアーや模擬授業を体験しよう！参加にあたっての事前申し込みは不要です。

## [ 2015年度オープンキャンパス日程 ]

8月2日(日)	10:00~16:00 [開場9:30] (予定)	駿河台キャンパス
8月3日(月)	10:00~16:00 [開場9:30] (予定)	駿河台キャンパス
8月4日(火)	10:00~16:00 [開場9:30] (予定)	駿河台キャンパス

オープンキャンパスに関する問い合わせ先  
 入学センター事務室 TEL.03-3296-4138  
<http://www.meiji.ac.jp/exam/event/opencampus/>

## キャンパス見学

左記の日程以外にもキャンパス見学は自由にできます。事前の申し込みは必要ありません。ただし、年末年始、入試実施に伴う入構制限期間中およびその他の本学が定める日等は、見学ができない場合があります。また、団体での見学をご希望の場合は、事前にご相談ください。

## 進学相談会

明治大学は、全国各地で開催される進学(受験)相談会に参加しています。くわしくは、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.meiji.ac.jp/exam/event/shingaku/>

## 情報コミュニケーション学部

<http://www.meiji.ac.jp/infocom/>



情報コミュニケーション学部事務室  
 (1・2年次:和泉キャンパス)

〒168-8555 東京都杉並区永福1-9-1 TEL.03-5300-1627~9  
 京王線・京王井の頭線、地下鉄都営新宿線(京王新線直通)/  
 明大前駅下車徒歩5分

※京王線●新宿から特急・準特急1つ目(約5分)、急行・区間急行・快速2つ目(約7分)、普通3つ目(約10分) ※地下鉄都営新宿線(京王新線直通)●快速(橋本行)新宿→笹塚→明大前(新宿から4つ目、約10分)/普通(笹塚行)新宿→笹塚→(京王線乗り換え)→明大前(新宿から約12分) ※京王井の頭線●渋谷から急行2つ目(約7分)、普通7つ目(約12分)/吉祥寺から急行3つ目(約13分)、普通9つ目(約17分)



情報コミュニケーション学部事務室  
 (3・4年次:駿河台キャンパス)

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 TEL.03-3296-4262~4  
 JR中央線・総武線、地下鉄東京メトロ丸の内線/御茶ノ水駅下車徒歩3分  
 地下鉄東京メトロ千代田線/新御茶ノ水駅下車徒歩5分  
 地下鉄都営三田線・新宿線・東京メトロ半蔵門線/神保町駅下車徒歩5分

※JR中央線・総武線の場合、新宿寄りに乗ると便利です。

受験生向け明治大学入試総合サイト

● 明治大学入試総合サイトURL  
<http://www.meiji.ac.jp/exam/>

● 明治大学  
 入試総合サイトの  
 QRコード

